

第七十回帝國議會
衆議院

絲價安定施設法案外一件委員會會議錄(速記)第十一回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
漁船再保險特別會計法案(政府提出)
森林火災國營保險法案(政府提出)
森林火災保險特別會計法案(政府提出)

會議

昭和十二年三月十六日(火曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 紫安新九郎君

理事小山邦太郎君 理事飯田邦夫君

理事横川 重次君

日比野民平君

松尾 四郎君

登坂 良作君

森 幸太郎君

今給黎誠吾君

三月十五日委員百瀬渡君辭任ニ付其ノ補關トシテ多田滿長君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席政府委員左ノ如シ

農林省山林局長 村上龍太郎君

農林省水産局長 原 辰二君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

農林書記官 寺田 省一君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

漁船再保險法案(政府提出)

漁船再保險特別會計法案(政府提出)

第七十回帝國議會

衆議院

第六類第五號

絲價安定施設法案外一件委員會會議錄

第十一回

森林火災國營保險法案(政府提出)

森林火災保險特別會計法案(政府提出)

○紫安委員長 開會致シマス——東條君

○東條委員 底曳ノ整理ノコトデ少シ伺ッテ置キタイト思フノデアリマスガ、前提トシテ申上ゲテ置キタイトハ、整理スベカラズト云フ意味ニ於テ、御伺スルノデハナ

イノデアリマス、無論整理ヲセネバナラヌト云フコトハ私モ認メテ居ルノデアリマス

ガ、豫算總會或ハ分科會等デ當局ノ御答辯ヲ拜聽致シマス、其整理ニ付テハ政府トシテハ獎勵シタコトハナイト云フ意味ノ御

答辯ガアリマシタガ、政府カラ地方廳ヘ如何様ナ御達シガアツカカクカハ存ジマ

セヌケレドモ、地方廳デハ補助金ナドヲ交

付致シマシテ、サウシテ獎勵シタコトハ事實ナノデアリマス、サウシテ長年ヤッテ居

リマスル職業ヲ廢メサセルノデアリマスカ

ラ、相當理由ガナケレバナラヌト同時ニ、又整理ハ已ムヲ得ナイ範圍ノ整理ニ止メナ

ケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、整理ノ案ハ實施上ノ御都合モアリマセウガ、豫

算ノ分科會等デモ御答辯ヲ伺ヒマスルト云

フト、成ベク御公表ニナラナイ御方針ノヤ

ウデアリマスケレドモ、實際ト致シマシテハ、整理ノ御方針ガ當業者方面ニ漏レテ居

ルヤウニ思フノデアリマス、北海道ノ實情カラ見マシテモ、此整理ヲサレルト云フ

コトガ、一般ニ擴マリマシタ其當時ニ於キ

マシテハ、全道ノ底曳網業者ガ吾々ノ所ニ

モ來テ、色々ト衷情ヲ訴ヘテ居リマス、一

面全廢論ノ沿岸漁業者ノ方カラモ、色々ナ

事情ヲ聽イテ居リマス、所ガ最近ニナリマ

シテ、或ル地方ノ底曳網業者ハ全然サウ云

フ話ヲシテ來ナクナリ、又陳情ナドニ出テ

來テ居リマスル顔觸レヲ見マシテモ、或ル

地方ノ人ハ一向出テ來ナイ、ドウ云フ譯デ

アルカト聽キ質シテ見マス、北海道ノ中

カラ小樽方面ヲ中心トシタ地方、或ハ函館

方面、斯ウ云フ方面ハ一隻モ殘サズ整理ヲ

サレルト云フヤウナ話ガ、當業者ノ方ニ傳ッ

テ居ルヤウデアリマシテ、一方ノ者ハ非常

ニ樂觀ヲシ、一方ノ者ハ非常ニ悲觀ヲシテ

居ルト云フヤウナ情勢ニアルノデアリマス

ルガ、整理ノ御方針ガ決ッテ居リマスルナ

ラバ、或ハ豫算分科會デ、或ハ豫算總會デ御

答辯ニナリマシタヤウナ本當ノ大綱ダケデ

ナク、モウ少シ内容ニ互ッテ承ルコトガ出來

マシタナラバ、其方ガ却テ當業者ヲ安心セ

シメル上ニ於テ宜イノデハナイカト考ヘル

ノデアリマスルガ、モウ少シ具體的ナ御方

針ヲ伺フコトガ出來ナイノデアリマセウカ

○原政府委員 只今御尋ノ底曳ノ整理ノ具

體案ヲ發表シタラドウカト云フ御尋ハ、洵

ニ御尤ト思ヒマス、併ナガラ實ハ底曳ノ整

理ニ付キマシテハ、農林省ト致シマシテ整

理シタイト云フ考ヲ持ッテ居ルコトモ事實デ

アリマスシ、又成ベク早イ機會ニ於テ實現

ヲスルノガ適當デアルト云フ風ニ考ヘテ居

ル譯デアリマスガ、唯當業者ガ非常ニ脅威

ヲ感ジタト申シマスカ、聞付ケテ騒イデ居

アルト云フコトガ分ッタクデアリマス、ソレ

リマシテ、彼等底曳業者トソレカラ又反對ノ立場ニアル沿岸漁業者ガ、整理斷行ヲ迫ル意味ニ於テ騒イデ參ッテ居リマスノハ、偶々昭和十二年度ノ豫算ニ底曳ノ轉業ノ資金ヲ、沿岸漁業振興費ノ中ニ若干計上ヲ致シタノデアリマス、其十二年度ノ所謂底曳ノ轉業資金ノ補助費ト云フモノハ、是全ク指導獎勵ニ依リマシテ、自發的ニ底曳漁業者ガ轉業ヲスル場合ニ資金ノ補助ヲシヨウ、斯ウ云フコトデアリマシテ、強制的ナ考ハ、全然十二年度ノ豫算ニ付キマシテハ、實ハ其考デハナイノデゴザイマスガ、當業者ノ方カラ見マスト云フト、サウ云フ事情ガ分ラヌ爲ニ、十二年度カラ何等カ非常ナ強硬ナ整理ノ方針ヲ立テテ、サウシテ其整理ニ著手スルノデアアル、當業者トシテハ否デモ應デモ、或數ハ強制的ニモ減ラサレルノデアアル、強制的ニ減ラス代リニ其減ラスベキ者ニハ、轉業資金ヲ是ダケ補助ヲスルカラ、オ前廢メテシマヘト云ッタヤウナ調子デヤラレルノデハナカラウカ、斯様ニ考ヘマシテ、サウナッテハ大變ダト云フノデ非常ニ心配ヲシテ、陳情ニ各方面カラ參ッタト云フヤウナ實情デゴザイマス、所ガ私共ノ方ノ管内ハソレトハ趣ヲ異ニシマシテ、豫算分科會デモ申上ガマシタヤウニ、十二年

度ノ豫算ヲ使ッテノ整理ト云フモノハ、直チニ強制的ニ廢メサスト云フ方針ノ下ニ、實ハ立ッテ居ル譯デヤナイノデゴザイマス、併ナガラ最初ニモ申上ガマシタヤウニ、ソレデヤ全然廢メタイ者ハ御廢メナサイト云フ程度ニシカ考ヘテ居ナイカト言ヘバ、將來ハ一定ノ所謂整理ノ方針ト云フモノヲ立テテ、其實行ニ伴ッテ必要トスル所ノ轉業資金ノ補助費ト云フモノヲ、サウ云フ趣旨ニ變ヘテ計上ヲシタイト云フ考ハ持ッテ居ルノデアリマス、只今サウ云フ程度ノ考デアリマスカラ、隨テ方針トシテ申上ゲ得ルノハ、大體整理ハ免レザル所デアアル、而シテ其目標トスル所ハ、現在許可ヲ受ケテ居リマス底曳漁業ノ船ノ數ガ約二千六百、其中半數、少クトモ千艘位ハ轉業ヲサセナケレバナラヌダラウ、而シテ轉業ヲサセナケレバナラモ、沿岸漁業者ノ極端ナ人ガ言ッテ居ルヤウニ、之ヲ即時ニ全減スベシトカ、撲滅スベシトカ云フヤウナコトヲ申シテ居リマスカ、サウ云フ荒ッポイヤリ方ハ是ハ行政トシテ考ヘナケレバナラヌヤリ方デアリマスカ、レバ、政府トシテハ過去ニ於テ特ニ獎勵ヲシタコトガナイニ致シマシテモ、多少其心持ヲ持ッテ居ッタコトモアルカモ分リマセズ、

又地方々々デハ御話ノヤウニ府縣費デ以テ獎勵金モ出サレタト云フ地方モアルヤウニ伺ッテ居リマス、言ッテ見レバ役所ノ方デ會テ獎勵シテ置イテ、今日ニナッテモウ邪魔ニナルカラ廢メサセルト言ハレルコトハ、甚ダ迷惑ダト云フ感ジヲ持ツコトモ、ソレハ一面ニ於テ無理カラヌ點モアル、斯様ニモ思ヒマスシ、又サウ云フ沿革ハ別ト致シマシテモ、成ベク無理ナクシテ轉業ヲサセルニハ、ヤハリ準備ノ期間モ見テヤラナケレバ無理ナコトデアリマスカラ、ソレデ現在ノ許可ノ期間ガ切レマシタ際ニハ、モウ一期即チ四五年ハ轉業ノ準備ノ期間ト致シマシテ、繼續シテ許可ヲスルト云フコトモ已ムヲ得ナイダラウ、サウ云フ風ニ考ヘテ居ル譯デアリマス、尙ホ轉業資金ヲ出スノミナラズ、親切ニ指導ヲシテヤル必要ガアルカラ、サウ云フ意味ニ於テ地方々々ニ指導ノ職員モ置クト云フ風ニ、成ベク親切ニ取扱ッテヤル必要ガアル、斯様ニ考ヘテ居リマス、サウ云フ趣旨ノコトヲ分科會デモ御話ヲ申上ゲタ譯デアリマシテ、而シテ本當ノ實行方針、實行ノ方法ト云フ風ナモノハ、是カラ地方ノ實情ヲ能ク見マシテ、抽象的ニ申上ゲレバ、沿岸漁業者トノ摩擦ノナイ、又底曳デナケレバヤレナイト云フヤウ

ナ漁業ハ、是ハ其部分デヤリマス底曳ヲ廢メサセルト云フ理由ハアリマセヌカラ、サウ云フモノハ延バス、ソレ以外ノモノハ廢メテ貰フト云フコトニナル譯デアリマスカ、サウ云フ事情ガ地方々々ニ依ッテ多少違ヒマスノデ、能ク地方ノ事情モ調査ヲ致シマシテ、サウシテ實行計畫ヲ立テタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデゴザイマシテ、今直グ實行ヲスル案ガ立ッテ居ッテ、ソレニ從ッテ十二年度ノ初頭カラ直グ其方針ヲ強行スル、當業者ガ心配ヲシテ居ルヤウナサウ云フヤウナ點ハナイノデアリマス、隨テ最近陳情者ガ餘リ出テ來ナクナッタト云フ御話ガアリマスガ、私ノ所ヘモ最初大變各地カラ心配ヲシテ業者ガ事情ヲ聞キニ來ラレマス、其際ニ能ク只今申上ゲマシタヤウナ趣旨ヲ御話致シマシタ所ガ、サウ云フコトデアレバ安心ガ行ッタト云ッテ、今ハ大多數ガ納得ヲシテ居ラレマスカラ、隨テ此陳情ノ爲ニ態々出テ來ラレルト云フ人ガ、段々少クナッタノモ當然デヤナイカト思ヒマス、サウ云フ事情デゴザイマス

○東條委員 サウ致シマス整理ノ御方針ハ、今ノ所ハ大體ノ目安ダケガ立ッテ居ルノデアッテ、實際ノ整理ハ尙ホ地方々々ノ實情ヲ調査ヲシテ、ソレニ基イテ實行ヲサレ

ルノデア、斯様ニ伺ッタノデアリマス、尙ホ今御話ノ陳情ニ出テ來ナクナッタ者ガアルト云フコトヲ申上ゲタノハ、全般的ニ來ナクナッタト云フノデアク、先程御話致シタヤウニ、或ル地方ハ整理ヲサレナイノデアルカラト云フ意味デ、或ル地方ダケノ者ガ出テ來ナクナッタ、詰リ整理ノ御方針ガ斯ウデアルト云フコトガ同業者ノ一部ニ何處カラ漏レタカ知リマセヌガ漏レタ、ソレデアルカラ俺達ノ所ハ整理サレナイカラト云フノデ、其地域ノ者ダケハ來ナクナッタ、其他ノ部分ハヤハリ非常ニ心配シテ居ルノデアリマス、實ハナゼサウ云フコトヲ伺ヒマスカト云フト、北海道デハ當業者モ、或ル程度ノ整理ハ免レナイモノト覺悟致シマシテ、ソレニ因ル損害ヲ出來ルナラバ同業者全體ガ負擔ヲスルヤウナ方法ニシテ行キタイト云フ考、詰リ政府ノ整理方針ニ一致シテ、オ互ノ損害ヲ成ベク少クシ、自分等ノ生活ヲ成ベクオ互ニ助け合フテ云フ意味デ、法人組織トマデハ行カヌカモ分リマセヌケレドモ、兎モ角整理ニ因ル損害ヲ共同デ負擔シヨウト云フ意味カラ、今ノ組合ヲモット強化ラシ、出來ルナラバ場合ニ依ッテハ法人組織ニシテモ宜シイ、サウシテ減船サレタモノヲ全部ノモノガ、オ互ノ職業上ノ災難

トシテ之ヲ分擔ヲスルコトニシヨウト云フ申合セガ最初出來テ居ッタ、所ガ最前申上ゲタ太平洋ノ沿岸東半分、「オホーツク」海方面ハ整理區域以外デアルト云フコトヲ、オ役所ノ中カラ聞キマシタ爲ニ、其方面ノ者ハ俺達ハ整理ヲ當然サレナイ區域ニ入ッテ居ルカラ、サウ云フ仲間ニ入ルノハ御免ヲ蒙ルト云フ態度ノ者ガ出來テ、全島ノ同業者ガ連帶ヲシテ、減船ノ苦痛ヲ分擔ヲシテ行カウト云フ大變美シイ、サウシテ整理ヲサレル場合ニ於テモ役所トシテモ非常ニ都合ノ好イ計畫ガ、ソレガ爲ニオジヤンニナッタト云フ實情ガアル、左様ナコトガアリマカスルコトハ、整理ヲ行ヒマスル上カラ言ッテ、オ役所ノ方カラ言ッテモ大變都合ノ惡イコトデア、又同業者仲間カラ言ヒマシテモ、大變都合ノ惡イコトデア、左様ナ事實ガアリマシタカラ、若シサウ云フ風ニ此區域ハ整理ヲスル、此區域ハ整理ヲシナイト云フ風ニ具體的ニ御方針ガ定マツテ居リマスルナラバ、一ツ之ヲ御公表ニナリマシタ方ガ、却テ宜イノデヤナイカト云フコトヲ伺ッタノデアリマス

ソレカラ地方々々ノ實情ヲ調査シタ上デ整理ヲスルノデアルト云フコトデアリマスカラ、今マデニ御調査ニナツテ居リマスル資料ノミニ依ラズ、今後ノ御調査ニ依ッテ具體的方針ヲ御決定ニナルモノト諒承スルヨリ外ナイト思ヒマスガ、此場所ニ依リマシテ是ハ大變遠ヒガアル、今ノ整理ノ御方針ヲ伺ッテ見マスト云フト非常ニ消極的デ、詰リ整理ヲスルト云フコトハ決メタ、又地方ノ實情ニ依ッテ、沿岸漁業トノ摩擦其他ヲ調査シテ整理ヲスルノデアルト云フ御話デアリマスルケレドモ、之ヲ速ニ斷行スルト云フノデヤナイ、マア半分ニスルトカ、一千艘ニスルトカ、詰リ許可年限ガ五箇年、之ニ最長五年位ノ猶豫期間ヲ與ヘテ、年限ガ切レルト整理シテ行カウト云フヤウナ御方針ノヤウデアリマスルガ、私共カラ考ヘマスルト、此問題ハ底曳業者ヲ安定セシメル上カラ申シマシテモ、又沿岸漁業者ノ利益ヲ擁護スル上カラ致シマシテモ、モウ少シ本當ニ公正ナ、サウシテ當ヲ得タ御調査ヲ進メラレテ、モウ少シ積極的ニ御臨ミニナルコトガ必要デハナイカト思フノデアリマス、詰リ地方ニ依リマシテハ、ソレコソ一年デモ速ニ整理ヲシナケレバ、沿岸漁業ガ立行カスト云フヤウナ情勢ノ地方モアルノデアリマス、斯様ナ所ハソレコソ一日モ早ク整理スベキモノヲ整理シテ、サウシテ沿岸漁業者ヲ安定セシメルト云フコトガ、必

要ナンデス、北海道方面ニ於キマシテモ、例ヘバ噴火灣ノ沿岸地方ト云フヤウナ所ハ、ヤハリ速ニ整理ヲシテヤラヌケレバ、沿岸漁業者ノ方ガ立行カヌノデアリマス、又地方ニ依リマシテハ整理ノ必要ノナイ所モアル、斯様ナ所ハ整理ヲシナイノデアルト云フコトヲ速ニ御決定ニナリマスルコトガ、底曳網業者ヲ安定セシメルコトニナルノデアリマス、ソレカラ又小樽方面カラ宗谷方面ニ到ル日本海ノ西海岸ノ沿岸、此地方ナドハ非常ニ難カシイ所デアリマシテ、無論現在ノヤウナ状態デアレバ、相當ニ整理ヲシナケレバナラヌ區域ニ入ルカモ知レマセヌケレドモ、モウ少シ大キナ目で見マスルト云フト、今ノ禁止區域ヲモット御擴張ニナリマシテ、積丹岬カラ天賣島、ソレカラ利尻島ト云フヤウナ方面ニ、眞直グニ禁止區域ヲ擴張サレマシテモ、其外側ニ例ノ武藏堆ノ大キナ漁區ガアルノデアリマス、小樽ヲ根據ト致シマシテ此方面ニ出テヤルト云フコトデアリマスレバ、沿岸漁業者ト全然摩擦ハナイ、ソレカラ又場所ニ依リマシテハ區域ノ關係デハナク、時期ノ關係ト云フ風ニ實情ヲ調査サレマスルナラバ、新シキ漁場ヲ見付ケテヤルコトモ出來マセウシ、又沿岸漁業トノ摩擦ヲ、整理ヲ行ハズ

シテナクスルト云フ方法モアルト考ヘル、斯ウ云フ點ニ付テノ御調査ヲ單ニ一二ノ技術者ノミノカニ依ラス、廣ク實際ノ漁業ニ當ッテ居リマスル、人ノ知識、經驗モ集メテ、適當ナ整理案ヲ立テルト云フコトガ必要デヤナイカト思フ、斯ウ云フヤウナ點ニ付キマシテ、何カ御考ガアリマスルカドウカ伺ヒタイ

○原政府委員

整理案ノ具體的ノ案ノ樹立實行等ニ付テ、私ノ先刻申上ゲマシタ趣旨ガ、大變氣長ニ考ヘテ居ルカノ如クニ御聽取リニナツタヤウデアリマスケレドモ、先刻申上ゲマシタノハ、只今ノ所ハサウ云フ程度ニ考ヘテ居ルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマシテ、段々御意見ノ如クニ、兎ニ角業界ニ「センセーション」ト申シマスカ、非常ニ影響ヲ現ニ與ヘテ居ル問題デアリマスルカラ、サウ云フ點カラ見マシテモ、一日モ早ク是ハシツカリ方針ヲ立テテ、五年ノ準備期間ト申シマシテモ、是ハ出來得ル限り、早ク轉業ニスベキモノハ轉業ニ導イテ行クヤウニ、努力ヲスル必要ガアルト思フノデアリマス、サウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、又此方針ノ樹立ニ付テハ、漁業ニ當ッテ居ル専門ノ方等ニ十分ニ聽イタラ宜イデハナイカト云フ御説モ、大體同様ニ考ヘテ居リ

マシテ、マア私ノ考デハヤハリ地方廳ノ人デアリマスルトカ、或ハ漁業組合ノ人デアリマスルカ、水産會ノ人デアリマスルカ、地方ニ所謂何處ノ漁場ハドウ云フ風デアッテ、ドウ云フモノガ居ルカト言ツタヤウナコトニ非常ニ明ルイ人ガ大抵ハ居ルヤウデアリマスカラ、サウ云フ方面ノ方トモ能ク相談ヲシテ行クコトガ適當ダト左様ニ考ヘテ居リマス

○東條委員

此整理ノ方針ヲ御立テニナリマス上ニ付テ、御參考マデニ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、地方ニ依ッテハ全然整理ト云フコトヲ念願ニ置カズニヤッテ居ル地方ガドチラカト云フト多イ、大部分ガサウダト言ッテ宜シイカト思ヒマスガ、地方ニ依ッテハ沿岸漁業トノ摩擦ト云フ方面、及ビ魚族保護ト云フヤウナ關係カラ整理ヲセネバナラス、ソレデ案ヲ地方廳ガ立テマシテ、サウシテズツト整理ヲシテ參ッテ居ル地方モアルノデアリマス、北海道ノ如キハ昭和元年ニハ二百八十一艘、ソレガ段々ト整理ヲシテ參リマシテ、色シナ規定ヲ設ケテ、例ヘバ船ヲ改装致シマス場合ニ、噸數ヲ減ゼシムルトカト云フヤウナ方法デ段々ト減ジマシテ、昭和十年ニハ百九十七艘トナリ、八十艘ト云フモノヲ、北海道廳ノ手デ整理シ

テ居ルノデアリマス、ソレカラ他ノ地方ヲ見マスルト云フト、全國的ニ殆ド殖エテ居リマス所ガ多クテ、茨城、三重、香川、大分ソレカラ鹿兒島、此五縣ハ多少ツツ減ッテ居リマスガ、餘ハ非常ニ殖エテ居リマス、斯ウ云フ風ニ既ニ地方廳ガ沿岸漁業トノ關係ヲ考ヘテ、出來ルダケ整理ヲシテ參リマシタ地方ニ於キマシテハ、既ニ農林省ガ御考ニナツテ居リマスル整理ト云フコトヲ、今マデニ或程度行ッテ來テ居ル、ソレカラ多少ノ摩擦ガアリマスル方面ニ於キマシテモ、出來ルダケ紛爭ヲ起サシメナイヤウニ、沿岸漁業者ノ組合ト底曳網ノ組合トガ協定ヲ致シマシテ、サウシテ禁止區域ノ境界ニハ浮標ヲ入レテ之ヲ明ニシ、サウシテ此區域ヲ侵サヌヤウニスルト云フヤウナコトヲ、地方廳ノ斡旋ニ依ッテズツトヤッテ來テ居ルノデアリマス、現在デハ北海道ノ太平洋沿岸ノ一部ノ如キハ、機船底曳網ト沿岸漁業者ノ間ニ、色々ナ問題ノ起リマスルノハ、北海道自體ノ船デナクシテ、青森縣デアリマスルトカ、或ハ宮城縣デアリマスルトカ云フヤウナ、他ノ方面デ許可ヲ受ケテ居リマスル船ガ此地方ヘ參リマシテ、サウシテ禁止區域ヲ犯ス、ソレガ爲ニ問題ヲ起ス、中捕マラスノデアリマスガ、偶ニ捕マヘテ

見ルト、北海道ノ船デナクシテ、内地ノ方カラ來タ船デアルト云フヤウナ事實ガアル、昨日モ伺ヒマシタガ、詰リ底曳ノ仕事ヲシテ居ル無許可ノモノガ、全國デハ六七千モアル、許可ヲ得テ營業ヲ致シテ居リマスルモノガ約二千六百、船ノ大キサナドハ違フカモ知レマセヌガ、無許可ノモノガ其倍以上モアルト云フヤウナ状態デアリマス、此底曳ト沿岸漁業トノ摩擦ト云フモノハ、全體的ニ見マスルト云フト、先ツ無許可デヤッテ居リマスルモノヲ絶滅ヲスルト云フコトガ先決問題デアッテ、之ヲ絶滅シテ了ヒマスルナラバ、或ハ當然許可ヲ受ケテ公々然トヤッテ居リマスルモノハ、殆ド整理ヲシナクテモ宜イ、或ル特別ノ沿岸漁業トノ摩擦ノ激シイ地方ダケヲ幾分ノ整理ヲスレバ、其他ハ殆ド整理ヲシナクテモ済ムト云フ状態ニナルノデハナイカト思フノデアリマス、何シロ許可ヲ得テ居ルモノノ倍以上モ、無許可ノ底曳ヲヤッテ居ルモノガアルモノヲ整理スル前ニ、此無許可ノモノノ取締ガ完全ニ行ハレナケレバナラスト考ヘルノデアリマスガ、此點ハ如何様ニ御考ニナツテ居リマスカ

○原政府委員 其點モ分科會デ色々御質問

ガアリマシテ申上ゲタコトデアリマスガ、御話ノ如ク無許可ノモノガドレダケアルカト云フ數ガ、第一ハツキリシナイノデアリマスガ、相當アルコトハドウモ事實ラシイノデアリマス、ソレヲ打捨テ置イテ、正當ニ許可ヲ受ケタ底曳、バカリ減ラスコトヲ考ヘルノハ、順序ガ轉倒シテ居ルヂヤナイカト云フ御話ハ御尤モダト思フ、私自身モサウ云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、併ナガラ此無許可ノモノヲ先ヅ無イヤウニシテシマツテカラデナケレバ、底曳ニハ手が著ケラレナイト云フコトデハ暇モ掛リマセウシ、必シモサウ云フ風ニ順序ヲ追ハナクテモ宜イノデハナイカト云フ風ニ考ヘマス、言ヒ換ヘマス、底曳ノ整理ト云フコトハ、同時ニ此無許可ノ取締履行ト云フコトヲ、不可分ノ關係ニ於テ考ヘル必要ガアルト云フ風ニ考ヘマシテ、ソレデスウ云フ無許可ノ取締、又許可ヲ受ケタ者デモ禁止區域ノ侵犯デアリマス、禁止期間ノ違反トカ云フヤウナ違反事件ガ、マダノ少ナクナイノデアリマスカラ、サウ云フ問題モ一緒ニ取締ル意味ニ於テ、取締方面ノ強化ヲ圖ルト云フコトハ、是ハ絶對的ニ必要デアアル、斯様ニ考ヘテ、サウ云フ方針モ整理方針ノ一ツト致シマシテ、具體案モ進メテ參リタ

イ、左様ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス
○東條委員 此取締ニ關シテ整理ヲスルト同時ニ、取締ヲ大ニ嚴重ニスルト云フ御話デアリマスガ、是ハ實際中々困難ナコトデアリマシテ、農林省ニ多數ノ優秀ヲ取締船ガアル譯デモナケレバ、地方廳ニ於キマシテモ速力ノ速イ取締船ヲ多數ニ造ルト云フコトハ、先ヅ絶對ニ困難ト云フテ宜イト思フノデアリマス、ソコデ私斯ウ云フコトヲ考ヘルノデアリマス、詰リ今日所謂準戰時代ト云フ意味ニ於キマシテ、國民ハ非常ナ犧牲ヲ拂ツテモ軍備ノ充實ヲ圖リ、又軍部モ國民生活ノ實際ニ對シテ非常ニ心配ヲサレマシテ、殊ニ農漁村ナドノコトニ付キマシテハ非常ニ同情モ持チ、心配モシテ居ラレル、海軍ニハ御承知ノ小サナ非常ニ速力ノ速イ水雷艇ノヤウナモノガアル、是ハ皆各々相當ナ任務ヲ持チ、相當ナ仕事ヲシテ居ラレルノデアリマスケレドモ、場合ニ依ツテ多少其力ヲ割イテ、斯様ナ産業上ノ重要問題ニ付テハ、幾分力ヲ手傳フシテ呉レル位ノ好意ハ持ツテ居ラレルノデハナイカト私考ヘマス、若シ法規ニ反シタ、國法ヲ犯シテヤリマスル所ノ、要スルニ非合法ナ漁業ヲヤツテ居ルモノニ對シテ、國ガ取締ノ必要上、海軍ニ御頼ミラシテ其船ヲ借りテ、或ル時

期監視ヲスルト云フコトニナリマス、御承知ノ如ク非常ニ速力ガ速イノデ、密漁ヲヤツテ居ルモノガ逃ゲル暇ガナイ、ソレカラ國民ノ軍隊ニ對シマスル特別ノ觀念ト云フヤウナ上カラ、サウ頻々トヤリマセヌデモ、今度ハ水雷艇ガ時々監視ニ來ルノダト云フコトガ、一般ノ間ニ知レマシタダケデモ、餘程法規ヲ犯スモノノ數ガ減ルデアラウト思フ、何處カノ海面ニ豫知サレナイ時期ニ、不意ニ年ニ一二回デモ三回デモ水雷艇ガ行ツテ、之ニ取締官憲ガ乗ツテ法規ヲ犯シテ居ルモノヲ捕ヘテ、處罰スルト云フヤウナ事實ガ、世ノ中ニ知ラレルヤウナコトニナリマス、非常ニ取締ノ上ニ效果ガアルト考ヘルノデアリマスガ、サウ云フコトヲ御考ニナツタコトガアリマスマイカ、又海軍ノ方デドウ云フコトヲ言ハレルカ分リマセスケレドモ、農林省ノ方カラ海軍ニ懇請サレル御考ハアリマスマイカ
○原政府委員 取締ニ付テ色々ノ御注意的ナ御意見ガアリマシタガ、能ク研究シテ見タイト思ヒマス、御承知ノ通りニ現在デモ、海軍ノ艦艇乗組ノ將校ニ限ツテ居リマシタガ、同時ニ漁業ノ取締官吏ノ資格モ持ツテ居ルヤウニ、法制上制度ハ出來テ居ルノデス、ソレデアリマスカラ、從來其漁業法

ノ規定ヲ活用致シマシテ、海軍ノ軍人サニニ漁業ノ取締ノ手傳ヲシテ貰ツテ居ルノハ、現ニ露領漁業ノ場合ニハ、毎年出動シテ協力シテ貰ツテ居ルノデアリマス、サウ言フ露領以外ノ關係ニ付キマシテモ、色々ト協力シテ戴クノモ或ハ一案カトモ考ヘマスノデ、其點ハ能ク研究シテ見タイト思ヒマス
○東條委員 サウ致シマスルト、要スルニ大體ノ方針ハ、先程伺ヒマシタ、詰リマア五箇年程度ノ猶豫期間ヲ與ヘル、ソレカラ大體マア半數乃至少クトモ一千艘位ハ整理スル、ソレカラ適當ノ轉業ノ指導ヲシテヤルト云フヤウナ御方針デ、サウシテ今後ニ於テ其地方々々ノ實際ノ狀況ヲ能ク御調査ニナリ、又其地方ノ地方廳デアリマス、水産關係ノ團體等ノ意見モ聽キ、其上デ實行案ヲ定メテ、今申シタ大體方針ニ基イテ整理ヲサレテ行クノデアルト、斯様ニ了承致シマシテ宜シウゴザイマス
○原政府委員 其通り御諒承ヲ戴キタイト思ヒマス
○東條委員 大體分リマシタガ、轉業ニ付キマシテ機船底曳ニ使ツテ居リマス船ヲ、沿岸漁業ニ使フト云フコトニナリマス、少シ船ガ大キ過ギル、沿岸漁業ニ轉業スルト

云フ場合ニハ、船ヲ取換ヘナケレバナラス
ト云フ必要ガ生ズル、ソレニ對シテマア建
造費ノ二割位ノ補助ヲナサルト云フコト
ヲ、分科會カ何カデ御答辯ニナツテ居リマ
スルガ、今日ノ水産業者、殊ニ底曳網業者ノ
實情カラ致シテ、今持ッテ居ル船ヲ何トカ
處分シナケレバナラス、整理ノ爲ニ處分
スルト云フコトニナリマスレバ、中々サウ
好イ値ニハ賣レマセズ、サウシテ一方新
イ船ヲ造ラナケレバナラス、ソレニ僅カニ
割位ノ補助ヲ貰ヒマシタノデハ、假ニ沿岸
漁業ニ轉業致シマスル積リデアルト致シ
シテモ、中々實行不可能ナコトダと思フ
デアリマス、此轉業指導ト云フコトニ付
テハ、多少地方的ノ事情モアリマセウケレ
ドモ、大體ドウ云フ風ニ御指導ニナリマス
御方針デアリマスカ、ソレヲ伺ッテ置キタイ
思ヒマス

○原政府委員 轉業ノ指導ニ付キマシテ
ハ、是モヤハリ地方々々ノ事情ニ依リマシ
テ、ドウ云フ他ノ漁業ニ移ッたら宜イカト云
フコトガ、ソレノ邊ラウト思ヒマス、
大體ノ見當ト致シマシテハ、底曳ヲ廢メテ
沿岸漁業者ト一緒ニ、所謂底曳以外ノ漁業
ヲ沿岸ヲ營ムノト、ソレカラ寧ロ大型船ト
申シマスカ、所謂遠洋ノ漁業ニ進出スル向

キニハ、ソツチノ方ニモ指導ガ出來ルヤウニ
考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、是ハ
又廢メテ轉業スル人ノ希望モゴザイマセウ
シ致シマスカラ、其邊ヲ能ク實情ニ適應シ
タヤウニ指導致シテ參リタイ、左様ニ考ヘ
テ居リマス

○東條委員 遠洋ノ方面ニ付テノ御話デア
リマスルガ、其遠洋ノ方面トハドウ云フ意
味ヲ含ンデ居ラレマスカ、ソレヲ御伺致シ
マス

○原政府委員 十二年度ノ豫算ニ計上シテ
居ル轉業資金ノ説明ニナル譯デスガ、大體
遠洋ト申シマシテモ、船ノ大キサニシマシ
テ五六十噸位ナ船デ出得ル範圍ノモノガ、
比較的取付キ易イノデヤナカラウカ、鮪、鰹
漁業ノ如キ、サウ云フモノヲ一應考ヘテ居
リマスガ、ソレハ又實情ニ依リマシテモッ
ト遠クヘ乗出シテ、南洋方面デアリマス
トカ、印度洋方面デアリマストカ云フ方面
ヘ
——ドウセ轉業スルナラ一ツソツチノ方ニ
方向轉換シテ見タイト云フ人ガアレバ、サ
ウ云フ方面モ成ベク指導ラシテ向イテ行ケ
ルヤウニ考ヘテヤリタイ、斯様ニ考ヘテ居
リマス

○東條委員 サウ云フコトニナリマスルト
云フト、尙更、現在漸ク經營致シテ居リマ

ス底曳業ヲ廢メテ、サウシテ比較的大キナ
完全ナ設備ヲシタ船ヲ造ッテ、サウシテ大キ
ナ資本ヲ要スル漁業ニ從ハネバナラスノデ
アリマスガ、ソレガ僅ニ二割位ノ補助デ出
來得ルト御考ヘニナツテ居リマスカ

○原政府委員 サウ云フ大型——ト申シマ
スカ、大キナ船ニナリマスト云フト、御説
ノヤウニ相當巨額ナ建造費ガ要ル譯デア
リマスガ、ソレニ對シテ二割位宜イカト云
フ點ハ、正直ニ申セバ私自身トシマシテモ、
實ハ自信ハ持ッテ居リマセヌ、是ハ大藏省ノ
方ト又ヨク相談モシ、當業者ノ實情モ亦ヨ
ク見マシテ、將來ハ考慮シテ參リタイと思
ヒマス、是モ御參考ニ一寸申上ゲマスガ、
遠洋漁業獎勵法ト云フノハ古クカラゴザイ
マシテ、其法律ニ依ッテ毎年豫算ノ範圍内
ニ於テ、百噸以上ノ船ヲ建造シテ、遠洋漁
業ニ従事スル者ニハ、建造費ノ二割ヲ補助
スル、最高二割ト云フコトニナツテ居リマ
スガ、此豫算モ實ハ此底曳ノ轉業ニ使フコ
トモ一案アラウト思フ、此豫算ニ付キマシ
テモ、現在ノ所僅ニ二隻分シカ豫算ガ認メ
テ呉レマセヌノデ、此漁業ノ發展ノ趨勢ニ
應ジマシテ、底曳ノ問題ガナクテモ此遠洋
漁業獎勵金ハ、私共ノ考トシテハモットモッ
ト數モ割合モ殖ヤス必要ガアルヤウニ考ヘ

テ居リマス、況ヤ茲ニ底曳ノ整理ト云フ問
題ト關聯シテ、之ヲ考ヘテ見マスト云フト、
御説ノ通り是位デハドウモ少シ少イノデヤ
ナカラウカト云フ氣持ハ、實ハ持ッテ居ル譯
デアリマス

○東條委員 此轉業ニ付キマシテハ、私共
考ヘマスルト、南ノ方ノ船ハ鬚長鮪ニ轉業
ヲサセル、北ノ方ノ船ハ「ベリリング」方面
ノ沖取ニ轉業サセル、此二ツノ案ヨリ無イ
デヤナイカト思フ、農林省ハ三箇年ノ豫定
デ「ベリリング」方面ノ試験ヲサレテ居ルヤ
ウデアリマスガ、其成績ノ具體的ノコトハ
承リマセヌケレドモ、アチラヘヤリマスナ
ラバ無論立派ニ生活ガ立ッテ行キ得ルコト
ガ分リ切ッテ居ル、ソレカラ又鬚長鮪ニ轉業
サセマシテモ、寧ロ場合ニ依ッテハ底曳網ヲ
ヤッテ居ルヨリモ、好イ結果ガ得ラレルデヤ
ナイカト思フ、サウシテ何レモ日本ノ産業
ノ一大躍進ト申シマスカ、非常ナ産業ノ發
展ニナル譯デス、唯亞米利加ノ神經ヲ刺戟
スルト云フ意味ニ於テ外務省、農林省共ニ
多少慎重ナル態度ヲ執ッテ居ラレルヤウデ
アリマスガ、斯様ナコトハ遠慮ヲ致シテ居ッ
タカラト云ッテドウモソレガ爲ニ——日本
ガ遠慮シテ呉レルカラト云ッテ大シタ利益
ガアル譯デモナカラウシ、又之ヲヤリマシ

タカラト言フテ、ソレガ爲ニ日米ノ國交ガ紛糾スルコトモナイト考ヘマス、此方面ニ轉業セシメルト云フコトデアリマスナラバ、マアアノ邊マデ出テ行クト云フコトニナリマスレバ幾ラカ大型ノ船ヲ要スルノデアリマセウケレドモ、マア母船ガ附イテ行クトデアリマスカラ、慣レテ居リマスモノハ、詰リ現在北千島、太平洋アタリデヤツテ居リマス實績ニ見マシテモ、船ノ改造ヲセヌデ今ノ船ヲ其儘持ッテ行ツテ、何處ヘデモ所謂出漁スルコトガ出來ルト云フコトニナリマスガ、之ニ對シテノ御考ハ如何デゴザイマスカ

○原政府委員 御説ノ通りニ沿岸以外ノ所謂遠洋漁業ト申シマス、マア大體ニ於テ南カ北ニ行クカ、然ラザレバ最近多少手ハ著ケテ居リマスガ、南米方面デアリマスカ、外國ノ領海ヘ行ッテヤル漁業デアリマスガ、マア大雜把ニ申セバサウ云フ所ヘ伸ビテ行クヨリ實ハ餘地ガナイ譯デアリマス、「ベーリング」アラスカ」方面ノ漁場ヲ、ドウ云フ風ニ將來利用スルカト云フコトハ、マダ何トモ申上ゲ兼ネマス、ト申シマスノハ外務省、農林省ガ非常ニ亞米利加ニ氣兼ねシテ、消極方針デアルカノ如クニ御話デゴザイマスガ、マア農林省トシマシテハ一

日モ速ク、アソコヲ日本人ノ手ニ依ッテ開發スル必要ガアルト云フ風ニ考ヘマシテ、寧ロ積極的ナ考ヲ持ッテ居ルノデス、唯其遠隔ナ所デアルダケニ無方針ニ許可スル譯ニハ行キマセズ、現ニ昨年初メテデアリマシタガ、農林省デ調査ラシテ見マス、此邊ヘ行ケバキツ澤山居ルダラウト思ハレタ所ニ案外居ナカッタリ、斯ウ云フ所ニハ餘リ居ラナイダラウト思ツタ所ニ案外居タリスルヤウナ結果モ、唯一年ノ模様デアリマスカラ、モウ少シ繼續シナクテハハッキリ申上ゲラレナイト思ヒマスケレドモ、サウ云フヤウナ事情モゴザイマシテ、ドウモ是ハ或ル程度調査ラシテ見當ヲ付ケテ、サウシテ又許可ノ方針ヲ立テマシテソレカラト云フ順序ヲ履マザルヲ得ナイト思ツテ、今其順序ニ從ッテヤツテ居ルヤウナ譯デゴザイマシテ、決シテアスコハ亞米利加ガ喧シイコトヲ云フカラソレニ氣兼ねシテ、行キタイノダケレドモ行カナイト云フヤウニ消極的ニ考ヘテ居ル譯デハ決シテゴザイマセヌ、其事情ヲ御諒承願ッテ置キタイト思ヒマス

○東條委員 サウ致シマスルト、調査ガモウ少シ進ンデ、大體ニドノ方面ニ行ケバ獲レルノデアルト云フ見當ガ付クヤウニナツタナラバ、積極的ニ日本人ノ手ニ依ッテ「アラスカ」「ベーリング」方面ノ海田ノ開發ヲヤラナケレバナラヌト云フ方針デ居ラレルト云フコトハ、大變國家ノ爲ニ結構ナコトデアリマス、若シサウ云フ御方針デ進マレルト致シマスレバ、モウ無論魚ノ多イコトハ分リ切ッテ居ルノデアリマスカラ、本年直チニトハ行キマセヌデモ、近イ將來ニ其實現ノ機會ガアルト考ヘルノデアリマス、サウ云フ場合ニハ此汽船底曳網ノ整理ナドハ此方面ヘ御向ケニナルト云フコトデアレバ寧ロ喜ンデ行クシ、又樂ニ行クダラウ、又日魯漁業ノ如キモ「カムチャツカ」ニ於ケル仕事ガ、露西亞トノ關係ガ中々面倒ニナリ、サウシテ色々困難ナ事情ガアルヤウデアリマス、又一面ニハ漁獲ノ保護ト云フヤウナ上カラ、漁獲ヲ自制シナケレバナラヌヤウナ情勢モ追々出來テ來ルノデ、斯ウ云フモノニハアチラノ方面ニ進出ノ機會ヲ與ヘラレルナラバ、非常ニ宜イノヂヤナイカト云フ考ヲ持ッテ居リマスルノデ、或ル程度ノ御調査ガ進ミマシタナラバ、成べく急速ニ向フノ方ニ對シテ日本人ノ進出ヲ寧ロ役所ガ手ヲ引イテ指導サレルト云フヤウニヤツテ戴キタイト考ヘルノデアリマス、此點ニ付テモウ少シ御考ヲハッキリ伺ヘバ大變結構デアリマス

ソレカラ次ニハ私共ノ知識ハ地方的デアリマシテ、全般ノコトハ分カラヌノデアリマスガ、機船底曳網ノ整理ヲ行ヒマシタナラバ、漁獲高ト云フモノハ非常ニ減ルノヂヤナイカ、沿岸漁業デト云フコトヲ申シマスルシ、摩擦ト云フ上カラ考ヘレバ、底曳網ガ獲ラナケレバ沿岸漁業民ガ獲ルノダト考ヘラレマスルカ知リマセヌガ、私ハサウ單純ニハ行カヌト思フ、殊ニ比較的ニ安イ魚、所謂大衆向ノ魚ハ、機船底曳網ノ漁獲物ガ多イノデアリマスルガ、此數ヲ殆ド半分ニスルトカ三分ノ一ニスルトカ云フコトニ相成リマシタナラバ、地方的ニハ大衆向ノ魚ト云フモノハ、非常ニ減リマシテ價格モ高クナリ、細民階級モ非常ニ困ルヤウナ状態ニナリハセヌカト考ヘマス、此需給關係ニ付テノ御見込ハドウデアリマスカ

○原政府委員 底曳ヲ整理スル結果、大衆向ノ魚ノ供給ガ非常ニ少クナリハシナイカト云フコトハ、時々伺フ問題デアリマスガ、私共ハ底曳ヲ先程申シマシタヤウニ、或ル程度整理ヲ致スコトニナリマス、魚族ノ生産力ト云フモノガ非常ニ増加スルト云フ風ニ考ヘルコトガ、隨テ底曳デ獲ッテ居ル位ナ分量ハ底曳以外ノ、言ヒ換レバ沿岸漁業トシテ十分ニ獲レルヤウニナルデア

ラウ、サウ云フ風ナ見込ヲ持ッテ居リマスコトト、ソレカラ又底曳デナケレバ、ドウシテモ獲レナイト云フ風ナ魚類ハ、是ハ沿岸漁業者トモ磨擦ナク、又資源ノ維持上差支ナイ程度ニ於テハ、底曳デヤハリ獲ラセルト云フ考デ居リマスカラ、極ク極端ニ申セバ整理ヲ一時ニヤリマス、其結果ト致シマシテ、一時的ニハ一寸漁獲高ノ減少ト云フコトガナイトモ限リマセヌケレドモ、只今申シマシタヤウニ相當期間ヲ掛ケマシテ、其間ニボツ／＼轉業ヲ指導ニ依ッテヤラセルト云フ風ニ考ヘテ居リマスカラ、大衆向ノ魚ガ非常ニ減ルト云フコトハ、私共ハ考ヘテ居ラスノデアリマス

○東條委員

是モ外國トノ契約關係ニ關係ヲ持ッテ居リマスガ、海獸ノ保護ニ關シマシテハ、亞米利加ト露西亞トノ條約ガアリマスノデ、アレノ爲ニ中部千島ガ殆ド拘束サレテ居リマスノミナラズ、北千島「カムチヤッカ」方面全體ニ互リマシテモ、魚族ノ保護ト云フ上カラ、非常ナ被害ヲ蒙ッテ居ルコトヲ考ヘル、アレヲ御取止メニナッテ中部千島ヲ開放サレル御考ハアリマセヌカ

○原政府委員

中部千島開放ニ付キマシテハ、只今ノ所具體的ニハ考ヘテ居リマセヌ、唯理想ト致シマシテハ、是非サウ云フ風ニ

シナクチヤナラスモノデアラウト云フ風ニ考ヘテ居リマス、隨ヒマシテ御話ノ獵虎、臘臍ノ保護條約ノ取扱ニ付キマシテモ、成ベク速ク條約締約國トノ間ニ話ヲ付ケタイト、斯ウ云フ意味ニ於テ外務省トモ色々相談ヲシ交渉ヲ進メテ居ル譯デゴザイマス

○東條委員

豫算分科會デアリマシタカ、政府委員ノ御答辯ニ依リマスルト、北千島ノ整理ハ主トシテ魚族保護ト云フ點カラ必要デアルト云フヤウニ考ヘテ居ラレルヤウデアリマスルガ、北千島ノ統制ト云フコトニ付テ、統制ノ必要デアル理由トシテ、ドウ云フ點ヲ御考ニナッテ居リマスカ、ハッキリ伺ヒタイ

○原政府委員

北千島ノ漁業統制ノ狙ヒ所ト申シマスカ、御話ノ如ク魚族ノ資源維持ト云フコトガ第一デアルト、斯様ニ考ヘテ居リマス、ト申シマスノハ御承知ノ通りニ、北洋ニ於ケル鮭鱒ト云フ最モ貴重ナル魚類ノ回游狀況ト云フモノハ、「カムチヤッカ」ノ東ノ方面カラ廻ッテ來マシテ、サウシテ「カムチヤッカ」ノ東側ノ「クロノッキー」岬ノ方面ニ打突カッテ來テ、ソレガ南下シテ北千島ノ幌筵島ノ、アノ海峡ヲ横切ッテ「カムチヤッカ」ノ西側ニ出ルト云フコトガ、從來ノ農林省ナリ又北海道廳ノ調査ニ依ッテ、大體

見當ガ付イテ居ルノデアリマス、所ガ其鮭鱒ノ回游ノ「コース」ノ間デ、丁度幌筵ノ南及ビ北ノ兩側、即チ其兩側ノ海峡ノ比較的狭イ場所ニ、一時魚ガ停滯スル時期ガアルノダサウデ、其時期ヲ目蒐ケテ北千島ノ所謂流シ網ト云フモノヲ漁撈スルト云フコトガ、魚ノ資源維持上非常ニ困ル、斯ウ云フ問題カラ幌筵海峡ノアノ狭イ所デ、二百艘モ操業ヲサセルト云フコトハ、ドウモ資源維持上面白クナイ、二百艘ノ許可ト云フモノハ、是ハ直チニ整理ハムヅカシイニ致シマシテモ、モウ少シ操業ノ方法ヲ變ヘサセテ許可スルトカ、或ハ漸次出來得レバ流シ網ノ數ヲ減ラス、或ハ船ノ數ヲ減ラス以外ニ、操業ノ期間モモウ少シ調整スル必要ガアラウ、サウ云フ風ナ色々ナ點ヲ考ヘテ居ル譯デアリマシテ、能ク北千島ノ漁業ニ關スル行政事務ヲ、農林省ニ所謂移管スルト云フコトヲ、移管其モノガ農林省ノ目的デアルカノ如クニ傳ヘラレテ居リマスケレドモ、農林省ノ主タル狙ヒ所ハ、移管其モノデハゴザイマセヌデ、今申シマシタ魚族ノ資源維持ノ爲ニ統制ヲ取ルト云フコト、其モノガ主眼デゴザイマスカラ、其處ハ誤解ノナイヤウニ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○東條委員

北千島へ來テ魚ノ停滯致シマスル時期ハ、何時頃デゴザイマスカ

○原政府委員

ソレガ丁度六月ノ下旬カラ七月ニ掛ケテ、所謂北千島ノ流シ網漁業ト云フモノガ操業ヲシテ居ル其時期ナンデス

○東條委員

御話ニ依リマス、狹イ區域ニ二百艘モ船ガ居テ、其處デ獲ルコトハ濫獲ニ陥リ、隨テ魚族ノ蕃殖保護ノ上カラ面白クナイト云フ御見解ノヤウデアリマスガ、太平洋ノ沖取ノ方ハ、其實際ノ狀況ヲ見マス、四艘ノ母船ガ殆ド十哩位ナ距離ノ間ニ居リマシテ、ソレガ魚ノ回游ト一緒ニズツ下ッテ來ルノデアリマス、一方ハ六十哩位ノ間ニ二百艘モ居ル、一方ハ僅カ十哩位ノ距離デ魚ト一緒ニ南下シテ行ク魚族ニ對シテ、獲リマスル關係ヲ見マスルト、必シモ北千島ノ方ガ多イト云フ判斷ヲ下スコトハ、間違ッテ居ハセヌカト考ヘマスガ、此點如何様ニ御考ニナリマスカ

○原政府委員

御話ノ太平洋ノ沖取モ、是ハ魚族資源ノ爲ニ善イカ悪イカト云フ點ニナリマス、勿論ヤラス方ガ宜イニハ相違ナカラウト思ヒマス、但シ現在許可ヲ致シテ居リマス母船四隻ニ、獨航船ガ百五六十隻カト思ヒマシタガ、其程度デヤッテ居ルノナラバ、資源維持上左程心配ハナイ、サ

ウ云フ見込デヤッテ居ルノデゴザイマシテ、何故サウ云フコトガ言ヘルカト申シマスト、先程一寸申シマシタ「クロノッキー」へ目蒐ケテ回游シマス魚ガ、相當廣イ幅ヲ以テヤッテ來ルノデスカラ——ソレガ後ハ狹イ幌筵ノ水道ヘカタマッテ入ルト云フノデアリマスカラ、要スルニ廣イ海面デ散ラバツテ獲ルカラ、母船四隻ト獨航船ガ百五六十杯デアリマシテモ、ソレガ北千島ノ幌筵ノ水道デ獲ル時ニ較ベテ影響ノ大小ヲ論ジマスト、寧ロ北千島ノ流シ網ノ方ガ魚ガカタマッテ居ル所ヲ狹イ區域デ拘上ゲルト云フコトガ、要スルニ資源ヲ枯ラス所以トシテ、重キヲナスヤウニ考ヘラレル譯ナンデアリマス

○東條委員 サウ御考ニナリマスコトハ、實際ヲ御覽ニナラナイ卓上カラ御覽ニナツタ見方デアリマシテ、成程太平洋デヤッテ居リマス區域ハ一千哩カラアリマスケレドモ、私ガ御尋致シタノハサウ云フ意味デハナイ、假ニ一千哩カラアル長イ距離デアリマシテモ、其全體ニ四艘ノ母船ニ百七十ノ漁船ガ散ラカッテ居ルノデハナクシテ、魚ハ所謂集團シテ來ルノデアリマス、此回游スルノニ附イテ此四隻ノ母船ガ、結局十哩位ナ間隔デ居リマシテ、サウシテソレカラ漁船ガ出テ獲ッテ居ル、魚ガ南下スルノト一緒ニ長イ距

離ヲ南下スルノデアリマスカラ、距離ハ成程非常ニ廣イケレドモ其集團シテ居ル魚ノ側ニ附イテ居ッテ、魚ト一緒ニ南下シテ來ルノデアリマスカラ、魚ノ集團シテ居ルノニ對シテ、漁船ガ散バリマス區域ノ上カラ見マスト、北千島ヨリ餘程密度ガ細カイ、北千島ハ六十哩バカリノ所ニ二百艘ト言ヒマスケレドモ、是ハ六十哩ヨリ外ニハ出ラレナイ、向フカラ魚族ガ來ルト言ッテ追駈ケテ行ク譯ニハ行カナイ、「カムチヤッカ」ニ追ッテ行ケナイ、其區域内ニ魚ガ來タトキニ獲ルダケデアリマスカ、一方ハ魚ノ移動ト共ニ船ガ南下シテ居ルノデアリマス、此點ヲハッキリ御考ニナラナイト、太平洋ハ廣イ區域ニ百七十艘、北千島ハ狹イ區域ニ二百艘ト云フ風ニ單純ニ御考ニナルト、事實トハ全ク合ヒマセヌ、此點ニ付テノ御調査ハドンナ風ニナツテ居リマスカ、サウ云フコトハ御調査ニナツテ居リマセヌカ、詰リ魚ノ移動ト漁船ノ移動トノ關係ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○原政府委員 先程申シマシタヤウニ、大體「ケーソン」ノ回游狀況其他ハ、農林省ノ北洋漁業ノ取締船等ニ依リマシテ、毎年出來ルダケ繼續ヲシテ調べ、又北海道廳ノ監視船、調査船等ニ於テモ御調べニナツテ居リマスカ、大體最前申シマシタヤウナ結果ヲ判斷シ得ル材料ガ出テ居ルノデアリマス、此點ハ東條サンノ御申シノ材料ト能ク後デ研究ヲセラレ、バ、御分リニナルノヂヤナイカト思ヒマスカ、私ノ方ノ見當ヲ付ケテ居ル材料ハ、サウ云フ調査ニ基イタ材料デゴザイマス

○東條委員 簡單ニハッキリサセタイト思フノハ、詰リ四艘ノ母船、百七十艘ノ漁船ト云フモノハ、魚ノ移動ト共ニ移動シテ居ルカ、或ハ移動セズ此漁期中一所ニ動かナイデ漁業ヤッテ居ルカ、此點ダケハッキリシテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 御話ノヤウニ魚群ト多少速度ノ違ヒハアリマセウガ、移動ヲシテ南下シテ居ルコトハ事實ノヤウデゴザイマス

○東條委員 魚族ノ蕃殖保護ト云フ上カラ申シマスナラバ、無論一ツモ獲ラナイト云フコトガ、一番宜イコトハ申ス迄モナイ、併シ獲ラヌデヤ居ラレナイカラ、獲リナガラ出來ルダケ蕃殖保護ヲシナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、是ハモウ私ハ申上ゲル必要ハナイコトデアリマスカ、是ガ蕃殖致シマスルノハ河デアリマス、ソレガ單純ナ國內産業デアリマスト、御承知ノ河デ魚ヲ獲ラセヌ、或ハ人工孵化ヲヤリマス所デハ、必要ナダケノ人工孵化ヲ計畫

テ居リマセウカドウカ、其點ヲ伺ヒマス
○原政府委員 左様ナ考ハ農林省トシテハ
持ッテ居リマセヌ、露西亞ノ爲ニ日本ノ國內
産業ヲ製肘シテ、遠慮スルト云フヤウナ考
デハナイノデアリマス

グ」方面ニ向ッテ、「カムチャッカ」ニ於ケル
減收ヲ補フベキ新ナ資源ヲ與ヘテ、サウシ
テ何處マデモ國內産業ノ進展ヲ圖リ、又日
本人ノ斯業ノ飛躍ヲ獎勵スルト云フ行キ方
ニ行クコトガ、國策上必要デナイカ、即チ
「カムチャッカ」ニ於ケル漁業ヲ保護スル爲
ニハ、北千島ヲ抑壓スルト云フコトヨリモ、
「カムチャッカ」ニ於ケル漁業ガ、十分ナ成
績ヲ擧ゲ得ナイトシマスルナラバ、外ニナ
ケレバ仕方ガナイガ、「アラスカ」、「ペーリ
ング」方面ニ於テ進出スベキ餘地ガアルノ
ダカラ、此代ルベキモノヲ與ヘテ、サウシ
テ「カムチャッカ」ヲ失フ所ヲ補ハシメル、
サウシテ北千島ノ産業ハヤハリ純然タル國
内産業トシテ、現在ヨリモ之ヲ縮減スルト
云フヤウナコトハ、シナイ方ガ當然デナイ
カ、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、之ニ對
シテ當局ノ考ハ如何デアリマスカ

○東條委員 此北千島ノ統制ト云フ問題ニ
付キマシテハ、是ハ非常ニ難カシイ影響ヲ
及ボスコトダト思ヒマス、何シロ歴史のニ
見マスト、此處ヲ開發致シマシタ者ハ、「カ
ムチャッカ」カラ追ハレ、太平洋カラ追ハレ
テ、最後ノ場所トシテ此開發ヲ致シマシテ、
相當苦心ヲシテ、昨年邊リ三百万圓近イ收
獲ヲ擧グル状態ニ迄ナッテ來タノデアリマ
ス、之ヲ適當ニ整理嚴選ヲシテ、魚族ノ繁
殖保護ヲ圖ラナケレバナラヌト云フコトヲ
考ヘテ居ラレルガ、私共カラ考ヘマスト、
寧ロ北千島ニ於テ制限ヲシ、嚴選ヲスルト
云フヤウナコトハ、國策ト云フ見地カラシ
テモ執ルベキコトデハナイノデヤナイカト
考ヘテ居リマス、ソレカラ又日露關係カラ
致シマシテ、若シ「カムチャッカ」ノ沿岸ニ
於ケル漁業ヲ保護スルト云フ上カラ、此處
ノ統制ガ必要デアルトカ、嚴選ガ必要デア
ルトカ言フコトデアルナラバ、何モサウ云
フコトマデシテ、國內産業ヲ抑壓致シマセ
ヌデモ、最前申シタ「アラスカ」、「ペーリ
ング」方面ニ向ッテ、「カムチャッカ」ニ於ケル
減收ヲ補フベキ新ナ資源ヲ與ヘテ、サウシ
テ何處マデモ國內産業ノ進展ヲ圖リ、又日
本人ノ斯業ノ飛躍ヲ獎勵スルト云フ行キ方
ニ行クコトガ、國策上必要デナイカ、即チ
「カムチャッカ」ニ於ケル漁業ヲ保護スル爲
ニハ、北千島ヲ抑壓スルト云フコトヨリモ、
「カムチャッカ」ニ於ケル漁業ガ、十分ナ成
績ヲ擧ゲ得ナイトシマスルナラバ、外ニナ
ケレバ仕方ガナイガ、「アラスカ」、「ペーリ
ング」方面ニ於テ進出スベキ餘地ガアルノ
ダカラ、此代ルベキモノヲ與ヘテ、サウシ
テ「カムチャッカ」ヲ失フ所ヲ補ハシメル、
サウシテ北千島ノ産業ハヤハリ純然タル國
内産業トシテ、現在ヨリモ之ヲ縮減スルト
云フヤウナコトハ、シナイ方ガ當然デナイ
カ、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、之ニ對
シテ當局ノ考ハ如何デアリマスカ

○原政府委員 東條サント私共ト根本的ニ
考ハチツトモ變ッテ居ラスヤウデゴザイマス
ガ、唯其方法ニ於キマシテ、少シ意見ガ違
フヤウデゴザイマス、北千島ノ統制問題ハ、
是ハ北千島ニ於ケル鮭鱒漁業ト云フモノヲ
無クシテシマハウトカ、遠慮サセヨウトカ
云フ趣旨デハナイノデゴザイマシテ、北洋
ノ漁業資源ト云フモノハ、モウ「カムチャ
カ」モ北千島モ、オ五ニ共通ノモノデゴ
ザイマスカラ、共存共榮ニ之ヲ利用スルヤ
ウニ考ヘル、而シテ其方法トシマシテハ先
程申上ゲマシタヤウニ、アノ狭イ水道ヲ操
業ヲスルト云フコトガ適當デアアル、一定ノ
統制ガ取レマスレバ、北千島ノ漁業其モノ
ノ健全ナル發達モ出來ル、斯様ニ考ヘテ居
リマスノデ、根本ノ考ニ於キマシテハ、東
條サンノ御説ト私共ノ見ル所ト、大ナル喰
ヒ違ハナイヤウニ考ヘマス

○東條委員 根本ノ考ハ大ナル違ハナイト
云フ御話ヲ伺ヒマシタノデ、大變結構ナコ
トト思ヒマスルガ、先ヅ北千島ヲ出來ルダ
ケ縮減ヲシナイ方針デ行カナケレバナラヌ
ト考ヘルコトハ、御承知ノコトト思ヒマス
ルケレドモ、實際ニ漁業ニ從事シテ居リマ
スル者カラ見マスルト、北千島ト沖取トハ
大變ナ違ガアルノデス、漁獲致シマシタモ
ノノ値段デモ、御承知ノ通り五割モ違フ、
此五割ト云フモノガ、要スルニ實際ニアノ
荒海ニ於テ命懸デ漁業致シマスル者ノ純益
ニナル、沖取モ北千島デ致シマスルノモ、
費用カラ言ヘバ大シク違ハナイ、サウシテ
獲ッタモノノ値段カラ言ヘバ五割カラ違フ、
斯ウ云フ點ヲ能ク御考ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、ソレカラ是モ十分御分リノコトト思ヒ

マスケレドモ、海獸ノ爲ニ澤山ノ魚ガ喰ハ
レテ居ルノデアリマスガ、斯ウ云フ方面ニ
付キマシテモ、何カ適當ナ方法ヲ以テ、海
獸ヲウント獲ラセル、サウシテ例ノ保護條
約ナンカ撤廢ヲシテシマツテ、ドン／＼海獸
ヲ獲ラセルト云フコトニナリマスレバ、是
モ魚族ノ繁殖ヲ助ケルト云フ上カラ、非常
ニ效果ガアルト思フ、大體ニ於テノ御方針ハ
略々分ッタヤウデアリマスカラ、細カイコト
ハ此場合申シマセヌ、昨日デシタカ申上ゲテ
置キマシタガ、アノ沿岸漁業ト底曳網ノ摩擦
ニ關スル御調ト、ソレカラ北千島ニ關スル
色々ナ御調ガアリマシタナラバ、是ハ後デ
モ宜シウゴザイマスカラ、モウ少シ詳シク
御話ヲ伺ヒタイシ、資料モ拜見致シタイ、他
ノ委員ノ方ニ對シテモ餘リ長イ時間掛リマ
ストドウカト思ヒマスカラ、此場合ハ此程
度デ止メテ置キマシテ、尙ホ豫算總會及ビ
分科會デ、大臣及ビ次官ガ御答辯ニナッテ居
リマスコトト關聯致シテ居リマスノデ、若
シ大臣ガ御出席ニナル機會ガアリマシタナ
ラバ、其時ニ更ニ簡單ニ質問ヲ致シタイト
思ヒマス、其點ヲ留保シマシテ本日ハ私ノ
質疑ハ是デ一時打切りマス

○紫安委員長 休憩ヲ致シマス、午後一時
ヨリ開會致シマス

○紫安委員長 休憩ヲ致シマス、午後一時
ヨリ開會致シマス

○紫安委員長 休憩ヲ致シマス、午後一時
ヨリ開會致シマス

○紫安委員長 休憩ヲ致シマス、午後一時
ヨリ開會致シマス

午後零時一分休憩

午後一時四十分開議

○紫安委員長 開會致シマス、多田君

○多田委員 私ハ最初ニ簡單ニ總括的ニ質

問ラシテ見タイト思ヒマス、昨日ノ委員會
デモ質問ガアリマシタガ、我國ノ漁業對策
ニ付テ當局ノ答辯ヲ伺ヒマス、水産資源
ノ涵養、或ハ増殖上ノ問題ニ付テハ積極
ニ機船底曳網ノ如キモノニ付テ十分ニ考慮
ラシテ、稚魚ノ濫獲ヲ防止スル、又他方消
極的ニハ、幼稚ナ漁民ノ知識ヲ啓發スル爲
ニ、指導者ヲ置クト云フヤウナ御話ガアリ
マシタ、固ヨリ日本ノ國情カラ申シマシテ

モ、亦我國ノ漁村ノ疲弊困憊セル狀況カラ
考ヘマシテモ、特ニ積極的ナ方針ヲ講ジテ、
漁村ノ振興ヲ圖ラシテ行カナケレバナラヌト
云フコトハ、是ハ申ス迄モナイノデアリマ
ス、所デ只今申サレタヤウナ程度デハ、ド
ウモマダ私共ハ十分満足スルコトガ出來ナ
イノデアリマス、政府ノ方デハ時局ニ鑑
ミテ水産國策ヲ樹立シタ、併シ財政上ノ見
地カラ是ガ實現ヲ見ルコトガ出來ナカッタ
ト云フ御説明ガアリマシタ、併シ農村ノ疲
弊ニ付テハ、可ナリ適當ナ方策ヲ講ジテ參
リマシタシ、又中小商工業者ニ對シテモ、

相當ノ方法ヲ講ジテ居ルノデアリマスカ
ラ、漁業者ノ疲弊ニ付テハ、特ニ一段ノ力
ヲ盡サナケレバナラス時代デアルト、私共
ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此時ニ當ッテ實
現ハ見ナカッタケレドモ、水産國策ヲ定メタ
ト云フコトデアリマスナラバ、其大要ヲ一
ツ具體的ニ伺ッテ參考ニスルト同時ニ、漁村
民ニ對シテモ安心ノ途ヲ與ヘテ行キタイ、
斯様ニ思ヒマシテ、先ヅ第一ニ水産國策ノ
具體的方策ト云フヤウナコトヲ、伺ッテ見タ
イト思ヒマス

○原政府委員 水産國策トシテ昨日私ノ一
寸申上ゲマシタノハ、沿岸漁業ノ振興ト云
フ問題デアリマシテ、多田サンノ御話ノヤ
ウニ、漁村ノ現狀、漁民ノ現狀等カラ鑑ミ
マシテ、最モ重キヲ置クベキ問題ノ一ツデ
アル、斯様ニ考ヘテ、昭和十二年度ノ豫算
編成ノ際ニ、國策ノ一ツトシテ提案ヲ致シ
タト云フ事情ヲ申上ゲタノデアリマシテ、
御話ノ如ク之ヲ以テ水産國策ノ全部ト考ヘ
テ居ル譯デハ勿論ゴザイマセヌ、而シテ水
産國策トシテ廣ク考ヘテ參リマスルト、色
色ナ施設ガ考ヘ得ルノデアリマス、沿岸漁
業ノ振興、其中デモ特ニ生産力ノ増進ヲ圖
ルト云フ施設ハ、昨日申上ゲタノデアリマ
スガ、此外ニ尙ホ經濟的ニ力ヲ養フ、例ヘ

バ漁業組合ノ強化ヲ圖ル、漁獲物ノ販賣ノ
施設、漁業用品ノ購入ノ施設、ソレ等ニ關
聯シテノ漁業ノ金融ノ改善デアリマス、トカ
教育ノ刷新ノ問題デアリマス、トカ、マア數
ヘ舉ゲレバ色々申上ゲル事ハアルノデアリ
マスルガ、マア現下ノ情勢カラ見マシテ、
先ヅ主力ヲ何處ヲ目標ニシテ行ッたら宜イ
カト云フ、多少緩急ヲ考ヘマシテ、私ノ考
ヘマシタノハ、沿岸漁業ノ振興ノ問題、ソ
レカラ、是ハ遂ニマダ物ニハナリマセヌガ、
金融問題ノ改善、漁業組合ヲ中心トスル漁
村ノ經濟活動ノ増進強化ト云フコトガ、目
下最モ急ヲ要シ、且ツ重要ナ問題デアラウ、
斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、主トシテ
是ハ沿岸ノ漁業者ト云フモノヲ對象ニシタ
問題デアリマスガ、又一面方面ヲ變ヘマシ
テ、大イニ遠洋漁業ノ振興ヲ圖ルト云フ風
ナ施設モ、是レ又漸ヲ追ヒマシテ、出來得
ル限り速ニ施設ヲスル必要ガアル、現在ノ
遠洋漁業獎勵法ノミヲ以テ、海外漁業ノ發
展ノ施設トスルニハ甚ダ貧弱ニ過ル、サウ
云フ風ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 今少シ國策ノ具體的ノコトヲ
實ハ伺ヒタイノデスケレドモ、マア大臣モ
居リマセヌシ、時間モ取りマスカラ、其點
ハ後日ニ譲リマス、此漁業對策ノ中心ヲ、

沿岸漁業ニ置イタト云フコトハ、是ハ洶ニ
結構デアリマス、私共モサウナケレバナラ
ヌト思ッテ居ルノデアリマス、所デ沿岸漁業
ヲ如何ニシテ振興セシムベキヤト云フコト
ハ、昨日來機船底曳網ニ付テノ御質問ガ大
分アリマシタカラ、此點ハ省略シマスガ、
私ハ主トシテ内海ノ方ヲ中心トシテ考ヘマ
シテ、沿岸漁業ノ中デ、養殖事業ニ付テ今
後力ヲ盡シテ行ク必要ガアラウト存ジマ
ス、私ノ考ヘ方ニ依リマス、今日ノヤウ
ニ總テノ方面ガ進歩シテ參ッタ時代ニ於テ
ハ、魚類ノヤウナモノモ、之ヲ天然自然ニ
委シテ置カナイデ、大抵ノモノハ養殖シテ
行ッたら宜カラウ、即チ天然ニ委シテ置クト
云フコトニナリマス、是ハ自然ニ限リガ
アルト云フコトデ、少シ位ノ保護ヲ加ヘテ
行キマシタ所デ、サウ長イ間ノ生命ヲ持タ
ナイト思ヒマス、隨テ人間ノ力デ盛ニ魚ヲ
作り出スト云フ譯デハアリマセヌガ、養殖
ラシテ行ク、譬ヘテ見マス、淡水魚デハ
現在鰻トカ鯉ノヤウナモノガ盛ニ養殖サレ
テ居リマス、此内海邊リデハ蛤トカ、淺蜆
トカ云フ如キモノハ盛ニ養殖サレテ、非常
ニ多量ニ生産サレテ居リマス、是ト同ジヤ
ウニ總テノ魚ト云フト少シ大袈裟カモ知レ
マセヌガ、多クノ魚類、貝類ト云フモノハ

養殖ヲシテ行ク、サウシテ人間ノ力ニ依ッテ、無限ニ之ヲ増加セシメテ行クト云フヤウナ方法ヲ講ジテ行ク必要ガアラウ、時代ハモウ養殖時代ニ入ッテ居ルト思ヒマス、勿論此點ニ付テ相當農林省邊リモ力ヲ盡シテ居ルト云フコトハ、私共能ク承知致シテ居リマスガ、更ニ一層進ンデ此方面ニ努力スル必要ガアラウト考ヘル、又之ニ依ッテ相當ノ研究機關ヲ作ッテ、此點ニ付テハ經費ナドハ惜シマズニ、ドシ／＼ヤッテ行ク必要ガアラウト思ヒマスガ、此點ニ對スル政府當局者ノ御見解ヲ、一ツ承ッテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 養殖ニ關スル多田サンノ御考ハ、私共ノ考ト全ク同様デゴザイマシテ、御話ノ如ク養殖ト申シマシテモ、魚ノ居ナイ所ニ魚ヲ生ミ出ス譯デハゴザイマセヌデ、之ヲ自然ノ儘ニウッチャッテ置カズニ、要スルニ保護ヲシテ歩留リヲ宜クスルト云フコトニ歸着スル譯デアリマシテ、是ハ人口ノ増加ト天然ノ儘ニウッチャッテ置イテノ魚類ノ増減トカト云フ風ナモノト、色々考ヘ合セテ見テモ、ドウシテモ所謂人工ニ依ッテ保護ヲ加ヘル増殖事業ト云フモノデ、益々補ヒラ付ケテ參ラナケレバ、人間ノ主要ナ食糧ノ問題ト云フモノハ、解決シナイノ

デハナカラウカ、斯様ナ考ヲ以テ從來モ出來ルダケ施設ヲヤッテ居ル積リデアリマシテ、今後モ多田サンノ御話ノ通り、其方面ニハ國策トスルト否トニ拘ラズ、十分ニ力ヲ入レテ參ラナケレバナラス、斯様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 増殖ヲ益々獎勵スルト云フコトハ洵ニ結構デアリマスガ、併シドノ程度マデ研究ガ積ンデ居ルカ、又ドレダケノ熱意ガアルカト云フコトニ付テハ、私ハマダ少シ疑ガアルノデアリマス、少シ細カイトデスガ、内海デハ蝦ガ能ク獲レマス、近來都會人が蝦ヲ非常ニ食用ニ供シテ、御承知ノヤウニ青島、或ハ「メキシコ」ト云フヤウナ各方面カラ、蝦ガ輸入サレテ居ルノデアリマス、所ガ何ト致シマシテモ、内海邊リデ獲レル蝦ハ其味ヒト言ヒ、風味ト言ヒ、總テ是レニ超スモノハナイノデアリマス、斯ウ云フ品物ハ一ツ何カ適當ナ方法デ養殖スル途ガアルノデハナイカ、又蟹ノヤウナモノハ、内海デ可ナリ在來獲レテ居リマシタケレドモ、都人士ガ非常ニ食ヘルヤウニナッテ、隨テ近頃蟹ノ供給ガ足ラズ、値段モウント上ッテ居リマス、此蟹ノヤウナモノモ養殖ノ途ガアルノデハナカラウカ、獨リ蝦トカ蟹ト云フヤウナモノバカリデナク

例ヘバ海苔ナドガ此内海デ非常ニ採レル、此海苔ニ對スル研究ト云フモノヲ今少シ盛ニシマシタナラバ、今ノ生産額ヲ二倍ニスル、三倍ニスルト云フヤウナコトモサウ困難デハナカラウト思フノデアリマスガ、ドウモ私共寡聞ニシテ是等ノ養殖ガ出來ルト云フコトヲ聞カヌノデアリマス、斯ウシタ點ニ對スル研究ガ十分届イテ居ラヌノデハナイカ、或ハ費用ガナイカラ、ソレハ出來ヌノダト仰シヤレバ仕方ガアリマセヌケレドモ、是ハ獨リ蝦ヤ蟹ヤ海苔ト云フヤウナ問題デナク、全國的ニ考ヘマシテ、總テノ魚貝ノ種類ニ向ッテ、今御話ノヤウナ保護ヲ加ヘテ之ヲ繁殖セシムル、即チモウ自然ノ力デナイノダ、人ノ力デ總テ一切ヲ解決シテ行ッテ、所謂魚族ノ資源ヲ開發シテ行クト云フコトニ努メナケレバナラスト思ヒマスガ、此點ニ對シテドレダケノ御研究ヲ爲サッテ居ルノカ、更ニ又將來研究所デモ盛ニ増設シ、費用モ相當出シテヤッテ行クト云フ熱意ヲ持ッテ居ルノカ、ドウカ是モ併セテ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 此増殖ニ付キマシテハ御承知カモ分リマセヌガ、從來政府ノ水産試験場、及び各地方ノ水産試験場ニ於キマシテ、色々調査ヲシテ參ッテ居ルノデアリマスガ、

其中デ大體斯ウ云フ風ニスレバ種ガ採レル、採ッタ種ヲ斯ウ云フ風ニシテ保護スレバ、ソレヲ増殖サセルコトガ出來ル、斯ウ云フ風ニスレバ此試驗場以外ニ於テモ、十分養殖事業トシテ民間ニ移シ得ルダラウト云フ風ナ見當ノ付イタモノカラ、之ヲ實行ニ移スト云フ順序デヤッテ居ル譯デアリマスガ、只今御話ノゴザイマシタ蝦デアリマストカ、蛤トカ、淺蜆、赤貝ト云フヤウナ貝類、海苔トカ、若布、天草ト言ッタヤウナ海藻類デアリマストカ、是等ハ大分研究ガ進ミマシテ、モウ事業トシテ民間ニ獎勵ヲシテヤラシテモ宜シイト云フ見當ガ付キマシテ、先程來申上ゲマシタ沿岸漁業振興トシテ増殖獎勵ヲ始メル、斯ウ云フ段取ニナッテ居ルノデゴザイマス、此外ニ於キマシテモ、例ヘバ蟹ノ如キモノモ、御話ノ如ク需要ガ益々殖エルニ拘ラズ、供給ガソレニ伴ハナイト云フコトデ、値段バカリ非常ニ上ツタト云フヤウナ點ニ鑑ミマシテ、是モ昨年からデアリマスガ、瀬戸内海ノ沿岸ニ昔鹽ヲ採ッテ居リマシタ、詰リ鹽田ノ跡地ト云フノガゴザイマス、其處デ養殖ヲスレバ好イ結果ヲ得ルダラウト云フ見當ヲ付ケテ、只今水産試験場デ岡山縣ノ笠岡ト云フ所ニ分場ヲ設ケマシテ、是ハ殆ド蟹ノ養殖ノ専門ノ試

験

驗ヲヤル分場ニナツテ居リマシテ、實行シテ居リマシガ、サウ云フコトニ致シマシテ、御話ノヤウニ爾餘ノ魚介類ニ付キマシテモ、出來ルダケ研究ヲ進メテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、唯遺憾ナコトハ私共ノヤツテ見タイ、ヤレバ相當效果ガアルダラウト思ヒマシテモ、中々豫算ヲ取ルノニ思フヤウニ行キマセスコトハ非常ニ残念ニ思ヒマスケレドモ、所謂御話ノ熱意ハ大ニ持ッテ居ル積リデゴザイマスカラ、ドウゾ宜シク御願致シマス

○多田委員 サウシマスト蝦ノ性能ト申シマスカ、是ハマダ十分研究ガ届イテ居ラスト云フヤウニ聞イテ居リマスケレドモ、モウ蝦ハ人工デ——人工ト言フト何デスガ、人ノ手ニ依ッテ十分養殖ガ出來ルト云フ程度ニ至ッテ居ルノデアリマスカ、蟹モ併セテ一ツ伺ヒマス

○原政府委員 水産試験場ノ試験ノ結果、蟹ハ今御話致シマシタガ、研究中デゴザイマシガ、蝦ハ大體見當ガ付イタ、實際的ノ指導ガ出來ルト云フ専門家ニ自信ガアルサウデアリマスカラ、是ハ十二年度カラ民間事業トシテ大ニヤラセヨウ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 洵ニ結構ナ話デアリマシガ、

サウシタ方針デドンノ研究シテ、養殖時代ヲ實現スルヤウニ御願ヒ致シタイノデアリマス、同時ニ經費ノ問題ナドヲ今仰シヤラレマシタガ、ドウモ事業ヲヤラレル上ニ於テ經費ガ足りナイ、是ハ御尤ノコトデアリマセウ、併シ前申シマシタヤウニ、漁業對策ト云フコトガ、日本ノ重要ナル國策ト云フコトヲ考ヘル時ニ方ッテハ、私ハ其熱意ガアレバヤラレルモノダト思フ、サウ心配ハナイ、私共モ亦及バズナガラ政府當局者ト協力シテ、斯ウ云フ點ニハ出來ルダケノ努力ヲ盡シタイト思ヒマスカラ、今後更ニ一層其熱意ヲ出シテ、水産業發展ノ爲ニ御盡力ヲ願ヒタイト思ヒマス、同時ニ沿岸漁業發展ノ一ツノ方法ト致シマシテ、水質ガ悪クナルコトハ、本會議デモ多分質問ガアリマシタデセウ、昨日モ其質問ガアッタト思ヒマス、工場地ガ段々發展シテ行ク、其處ニ藥品毒物ガ流レテ行ク、或ハ機械船ガ段々發展シテ行ク、ソレニ依ッテ汚物油類ガ流レテ行ク、是ガ爲ニ漁類ノ棲息ヲ不可能ナラシメルト云フヤウナ事實ガ、モウ既ニ現ニアルノデアリマシガ、此水質ノ汚毒ヲ防止スル方法、之ニ付テマダ政府當局カラ、御答辯ヲ聽カヌノデアリマシガ、出來ルナラバ一ツ水質汚毒ヲ防止スル法律ト云フヤ

ウナモノデモ作ッテ、之ヲ徹底的ニ防イデ、將來ノ漁業ニ對シテ貢獻スルヤウニシテ行キタイト、私共ハ考ヘテ居ルノデアリマシガ、政府トシテドウ云フ風ニ御考ニナツテ居ルノカ、此防止法ヲ提案スル積リデアアルノカ、或ハ又マダ調査中ト云フコトニナツテ居ルノカ、調査中デアルトスルナラバ、ドンナ經過ニナツテ居ルカ、其筋道ダケデモ此處デ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 水質汚毒ノ防止ニ關スル法制ヲ必要トスルト云フコトハ、是ハ最早議論ノナイコトト思ヒマス、多クノ先進國ト申シマスカ、諸外國デハ多ク既ニ法律モ出シテ施行ヲ致シテ居ルサウデアリマス、我國ニ於キマシテモ、一日モ速ク此法律制度ヲ制定施行スルト云フコトガ、人絹デアリマストカ各種ノ工業勃興ニ伴ッテ、モ少シモウ制度ガ遅過ギルト云フ風ニ吾々ハ考ヘテ居リマシテ、從來モ漁業法、鑛業法、工場法等ニ於キマシテ、所謂毒水濁水ト云フモノノ流失漏泄ト云フモノヲ禁止スル規定ガアリ、又防止ニ付テ相當ノ設備ヲシナケレバ、工場等モ許可ヲシナイト云フ風ニ一通リノ筋道ハ立ッテ居リマシガ、實際問題ト致シマシテハ、ドウ云フ惡水ヲドノ程度流セバ、魚類ニドノ程度ノ被害ガ生ズルカト云

フ點ノ調査ガ、マダ今日ノ所十分ニ出來テ居リマセヌノデ、ソレデアリマスカラ實際問題ガ起リマスト、害ガアルトカナイトカ言ッテ、議論倒レニ了ルト云フ事例ガ甚ダ多イノデアリマス、是ハ甚ダ遺憾ナコトデアリマシノデ、水産當局ト致シマシテハ、先ヅ技術的ニ調査ヲシテ、水質ト魚類ノ棲息、又繁殖等ニドウ云フ關係ヲ持ツカ、影響ヲ及ボスカト云フ點ヲ一ツハッキリ致シマシテ、ソレヲ土臺ニ致シマシテ、速ク法律ヲ出ス所マデ漕付ケタイト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマシガ、遺憾ナガラ毎年事務當局ト致シマシテハ、之ニ要スル經費豫算モ要求ハスルノデアリマスケレドモ、色色ナ事情ニ依リマシテ、未ダニ其調査中デアルト云フコトスラ申上ゲルコトノ出來ナイヤウナ、甚ダ遺憾ナ状態ニナツテ居リマス

○多田委員 水質汚毒防止ト云フコトニ付テハ、是ハ當然ヤラナケレバナラナイ、而モ之ヲ法制化スル必要ガアルト云フコトハ、當局モ御認メニナツテ居ルノデアリマス、而モ唯豫算ガ取レナイノデ調査スルコトモ出來ナイト云フ現狀ニ在ルノハ、甚ダ遺憾ナコトデアルト云フコトデアリマシガ、私共モ亦頗ル是ハ遺憾ニ思ヒマス、斯ウシタ漁業家ニ對スル重要ナ事柄デアリマシカ

ラ、一日モ早ク豫算ヲ取ツテ、モウ既ニ遅イ
ノデアリマスケレドモ、併シヤラザルニ優
リマスカラ、早速一ツ調査ニ取掛ルヤウニ、
サウシテ我が漁業者ヲシテ安心セシムルヤ
ウナ處置ヲ講ジテ戴キタイト云フコトヲ希
望シテ置キマス、同時ニ漁船保險ニ關聯ヲ
致シマシテ、漁業労働者ニ對シテ、社會保
險ヲ考ヘル意思ハナイカト云フコトヲ、此
際伺ツテ置キタイト思ヒマス、御承知ノヤウ
ニ既ニ自由労働者ノ大部分ニ對シテハ、相
當扶助ヲ受ケル爲ノ規定ハ出來テ居ルノデ
アリマス、是ハ労働者災害扶助法、或ハ勞
働者災害扶助責任保險法ト云フヤウナモノ
ハ、既ニ實施サレテ居ルノデアリマス、所
ガ漁業者ダケハ此恩典ニ浴シテ居ラナイ、
數ニシマスレバ六十數万人ノ多キニ達シテ
居ルノデハナカラウカト思フ漁業労働者、
又一箇年間ノ被災害者數カラ申シマス、
古イ統計デ今日ノ状態ハハッキリ致シマセ
ヌケレドモ、先ヅ五千ヤ六千人ハ懼ッテ居
ルノデハナカラウカト思ヒマス、サウシタ
コトヲ考ヘテ見マス、何トシテモ漁業者
ノ現状ニ鑑ミテ、此點ニ付テ適當ナ方策ヲ
講ジテヤルト云フコトハ、私ハ緊急ナコト
ト思ッテ居リマス、漁船ノ保險法ガ出來ルト
云フコトハ、是ハ確ニ一進歩デアル、私共

之ヲ歡迎シテ居リマスケレドモ、ソレト共
ニ漁業者ニ對スル社會保險ノ制度ガナイト
云フコトハ、是ハ全ク畫龍點睛ヲ缺クノ嫌
ヒガアリマス、此點ハ一ツ成ベク早急ニ實
施シテ戴キタイト、斯ウ考ヘテ居リマスケレ
ドモ當局ハ如何ニ御考ニナリマスカカ伺ッテ
置キタイト思ヒマス

○原政府委員 漁業労働者ノ保險制度、是
モ實ハ今マデ斯ウ云フ制度ガナイノハ、私
共考ヘマシテモ不思議ナ位ニ思ヒマス、社
會保險ノ發達シタ今日ニ於キマシテ、當然
是モ考ヘナケレバナラス問題ダト思ッテ居
リマス、唯御承知ノ通りニ、陸上ノ労働者
ト違ヒマシテ、海上労働者ニ付テノ保險制
度ヲ實施スルト致シマシテモ、其保險ノ資
料ヲ調査スルノニ一通リナラス苦心ヲ要ス
ル點ガ多々アルノデアリマス、サウ云フ點
ハアリマスケレドモ、私共ノ考デハ、先ヅ
漁船ノ保險ト云フモノガ解決スレバ、其次
ニハ——順序ハ寧ロ顛倒スル位ニ考ヘマス
ケレドモ、漁業労働者ノ扶助保險ト云フ風
ナ社會施設モ、是非試ミナケレバナラス、
斯様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 此點ニ對シテハ政府モ相當御
考慮ノヤウデアリマスカラ、出來ルダケ速
ク是ガ實現ノ運ビニ至ルヤウニ御盡力ヲ願
ヒタイト思ヒマス、今一ツ沿岸漁業ノコト
デ伺ヒタイトコトハ、沿岸漁業者間ニ色々紛
争ガ起ルコトガ屢アリマス、是ハ他ノ委員
カラモ御質問ニナツタヤウデアリマスガ、私
共千葉縣神奈川縣トノ間デ漁業者ガ始終喧
嘩ヲシタリ、争ヲ起スト云フヤウナコトデ
實ハ迷惑ヲシテ居ルノデアリマスガ、此紛
議解決ノ對策ニ付テノ御考ヲ、一應承ッテ置
キタイト思ヒマス

○原政府委員 現在漁業者ノ紛争、御話ノ
如クニ各地方デ色々事件ガ相當アルヤウ
デアリマス、是ガ解決ノ爲ニ如何ナル制度
ヲ採ツタラ、宜イカト云フコトハ、色々考究
ハシテ居リマスガ、大體斯ウ云フ風ニヤル
考ダト、御説明ヲ申上ゲル程度ニハマダ考
ヘテハ居リマセヌガ、一種ノ簡易ナ調停ノ
何等カ制度ヲ立テルノモ、一ツノ方法デア
ラウカト思ヒマスシ、其地方々々ニ於テ漁
業組合ナリ、水産會ナリト云フモノヲ中心
ニシテ、お互方調停シ合フト云フ風ナ仕組
モ、如何ナモノデアラウカト云フ風ニ、色
色考ヘテハ居リマスケレドモ、只今申上ゲ
マシタヤウニ、マダ明確ニ御説明申上ゲル
程度マデ、實ハ考ハ練レテ居リマセヌ

○多田委員 此點モ一ツ出來ルダケ御研究
ニナツテ、適當ナ方針ヲ立テラレントヲ希
望致シテ置キマス、ソレカラ今一ツ沿岸漁
業者トシテ特ニ考ヘテ戴キタイトコトハ、水
産加工品ノ海外輸出ノ點デアリマス、例ヘ
バ一例ヲ舉ゲテ見マス、前申上ゲマシタ
ヤウニ外國カラ海老ノヤウナモノガドンド
ン入ッテ來ル、之ヲ一ツ反對ニ外國ニ押出ス
ヤウナ工夫ヲ講ジテ行クコトガ、日本ノ漁
業ヲ發展セシムル一ツノ途デハナカラウカ
ト思ヒマスガ、例ヘバ蛤ノヤウナモノハ、
近來内海デハ養殖事業トシテ成功シテ居ル
コトハ、御承知ノ通りデアリマス、而シテ
此加工品ハ亞米利加アタリデモ、大變需要
ガ多クナツテ居ルト聞イテ居リマス、併シ加
工費、或ハ運賃種々關係カラ致シマシテ
マダ思フヤウニ輸出スルコトノ出來ナイヤ
ウナ狀況ニナツテ居ルノデアリマスガ、之ニ
對シテ在來或ハ幾ラカノ施設ヲ講ジテ居ル
トハ聞イテ居リマシタガ、何か特殊ノ方法
デモ講ジテ、斯ウ云フモノヲドン／＼外國
ニ出シテ行クト云フ方法ヲ、御考ヘ下サル
譯ニハ參リマスマイカ、此點ヲ伺ッテ置キ
タイト思ヒマス

○原政府委員 水産加工品ノ輸出獎勵ノ施
設ト致シマシテ、此數年前カラ豫算ニ多少
經費ヲ計上致シマシテ、出荷團體ニ宣傳試
賣ノ事業補助ト云フ形ニ於キマシテ、補助

ヲ致シテ居リマス、又粗製品ノ検査ヲヤリマシテ、品位ノ向上、製品ノ改良ト云フコトヲ圖ラセル意味ニ於キマシテ、是モ必シモ輸出ノミヲ目算ケテノモノデアリマセヌガ、輸出品ニハ特ニ氣ヲ付ケテ、多ク其方面へ振向ケルヤウニヤツテ居ッタノデアリマスガ、御話ノ如ク從來ノ金額ガ三四万圓程度ノモノデアリマシテ、是モ甚ダ輕少ニ過ギマスノデ、來年度ハ多少殖エルコトニナツタ次第デアリマシテ、輸出水産物ノ販路擴張、宣傳試賣ト云フヤウナ事業ノ爲ニ、補助金ヲ從來ヨリモ幾ラカ餘計廻サレルヤウナコトニナル譯デアリマスガ、マア

吾々ノ理想ト致シマシテハ、是ガ豫算ノ御協賛ヲ得テ、實行ガ出來ルト致シマシテモ、マダマダ其程度デヤ満足スベキモノトハ決シテ考ヘテ居リマセヌ、將來益斯ウ云フ方面ニモ力ヲ加ヘル必要ガアル、斯様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 此點一ツ更ニ一段ノ御盡力ヲ御願致シタイト思ヒマス、ソレカラ此漁船保險ノ保險料率ノ問題デゴザイマスガ、政府デ發表シタ漁船保險法要旨ニ依ッテ見マスト、保險料ハ内地總漁船ノ平均ハ、動力附漁船ニ付テハ、保險金百圓ニ對シテ二圓三十九錢、其中純保險料ガ一圓六十三錢、

附加保險料約七十六錢云々、無動力漁船ニ付テモ大體ノコトガ書イテアリマスガ、此保險料ノ中デ附加保險料ト云フノハ、ドウ云フモノデアリマスガ、之ヲ一寸伺ッテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 是ハ漁船保險組合ノ事務費デアリマス、ソレヲ保險ヲ掛ケル人カラ、保險料ノ一部ニ込メテ取ルノガ例デゴザイマス

○多田委員 所デ此保險料金ヲ算出シマシタ基準、此點ヲ一ツ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 保險料率ノ大體出シ方ハ、所謂危險率ト云フモノヲ見テ置キマシテ、ソレニ幾分ノ安全率ト云フモノヲ加ヘマシテ、サウシテ更ニ只今申上ゲマシタ組合ノ事務費ヲ附加保險料トシマシテ、ソレヲ三者加ヘタモノガ、普通保險料ト云フモノニナルノデアリマス、其危險率ハ果シテドウ云フ風ニシテ算出スルカ、安全率ハドウ云フ風ニシテ算出スルカト云フコトハ、數學的ニ中々厄介ナ計算法デアリマスカラ、私ヨリモ或ハ専門ノ人ガ參ッテ居リマスカラ、御許ヲ得マシレバ、説明員ヨリ御説明申上ゲタ方ガ宜シイカト存ジマスガ、大體ノ大摺ミノ計算ノ順序ハ、サウ云フ風ニシテ出

ス譯デアリマス

○多田委員 今ノ點ハ説明員カラデモ宜シウゴザイマス、細カイ事ハ要リマセヌカラ、大體ノ事ヲ御説明ヲ願ヒマス

○紫安委員長 農林省海洋課長ニ説明員トシテ發言ヲ許シマス

○寺田農林書記官 只今ノ御尋ノゴザイマシタ保險料率算出ノ基礎ニ付テ申上ゲマス、保險料率算出ニ付キマシテハ、危險率ノ算定ニ付キマシテハ、全國ノ漁船ニ就キマシテ、之ヲ漁區別ヲ九ツト致シマシテ、ソレカラ府縣別ニ、更ニ動力ノ有無ニ、ソレカラ漁業ノ種類別ニ、更ニモウ一ツ總噸數別ニ、之ヲ八種類ト致シマシテ、ソレノ種類ニ依ッテ之ヲ計算致シテ居リマス、其計算ニ付キマシテ、更ニ安全率ニ相當スル値ヲ算出致シマシテ、之ヲ加算シマシテ保險料ノ基礎ト致シテ居リマス、ソレカラ附加保險料ノ算出ノ基礎ニ付キマシテハ、各區ノ經費ヲ平均致シマシテ、二千圓ト云フコトニ致シテ居リマス、其二千圓ノ出マシタノハ全國ノ平均デゴザイマス、其他ニ更ニ附加再保險料ニ相當スル金額ヲモ加算致シマシテ、全體ノ保險料ヲ算出シテ居リマス、尙ホ此保險料ノ算出ニ付キマシテハ、分損ノ場合ヲモ考慮致シマシテ、其點ヲモ

保險料率算定ノ場合ニ加算シテ居リマス、大體以上デゴザイマス

○多田委員 私共素人デゴザイマスカラ、サウ云フ技術的ノ方ノコトハ餘リ能ク分リマセヌガ、此漁船ノ保險料ハ出漁方面詰リ魚ヲ獲リニ行ク方面ノコト、ソレカラ或ハ此船ノ構造若クハ噸數ト云フヤウナモノナドニ付テモ、考ヘテ行ク必要ガアラウト思ヒマスガ、今ノ出漁ノ方面ノコトナドハ御考ニナツテ居リマセヌデスカ

○寺田農林書記官 御答申上ゲマス、只今ノ御尋デゴザイマスガ、出漁先ニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタ海區ト云フ中デ考慮致シテ居リマス、ソレカラ更ニ漁業ノ種類ニ依リマシテ、大體ノ見當ヲ付ケルコトニ致シテ居リマス、更ニ漁船ノ構造ニ付キマシテハ、動力ノ有無ニ付キマシテ、之ヲ區別シテ考ヘルコトニ致シテ居リマス外、實施ノ場合ニ於キマシテハ木船、鋼船ノ區別ニ付テモ之ヲ考ヘタイト思ッテ居リマス、ソレカラ總噸數ノ種類ニ付キマシテハ、大體之ヲ八種類位ニ分ケマシテ考ヘテ行キタイト思ッテ居リマス

○多田委員 更ニ伺ヒマスガ此保險料ノ百圓ニ對シテ二圓三十九錢ト云フ金額ハ少シ高過ギルノデヤナイカト云フ氣ガシマス、

成程算定ノ基準ヲ伺ッテ見マスト、ソレトノ理由ハアリマセウ、アリマセウガ、今日ノ漁業者ヲ救済スル意味ニ於テ、斯ウ云フ法律ガ出ルト云フコトデアリマスタラバ、斯ウシタ保險料ノ如キモノハ成ベク安クシテヤル、技術的ノ考慮ヨリハ、寧ろ政治的ノ考慮ヲ加味シテ行クト云フコトガ必要デアラウト思フデアリマシテ、是ガ爲ニ若シ必要トアレバ、相當ノ金ヲ政府デ補助シテモ、低料金ニシテヤル必要ガアラウト思フノデアリマスケレドモ、サウ云フ餘地ハナイノデアリマスカ、又サウ云フコトヲ考慮シタコトハゴザイマセヌノデスカ、ソレヲ伺ッテ置キタイ

○原政府委員 此保險料ノ點ハ、御話ノヤウニ安ケレバ安イ程結構ト思ヒマス、ソレデ御尋ノ點ニ付キマシテハ、保險金額百圓ニ付テ二圓三十何錢ト云フモノガ、高イカ安イカト云フ點ノ見方デゴザイマスカ、是ハ私共ノ方デハ民間ノ保險アタリト較ベルト、第一非常ニ安クナッテ居ル、割合ヲ比較シテ見レバ、民間ノ保險ヨリモ三割乃至五割ハ安クナッテ居ルノデス、ソレデ又現在地方ニ依リマシテハ、斯ウ云フ保險ト云フガチリシタ制度ハアリマセスケレドモ、所謂共濟施設トシマシテ、保險類似ノコトヲ多

少ヤッテ居ル地方ガゴザイマス、其邊ノ共濟ノ積金ト云フ風ナモノヲ見マシテモ、此程度ノモノハ大體皆自分々々積ンデ居ルヤウナ所モアルノデアリマス、ソレデ保險料ノ實際運用ノ場合ニハ、モウ少シ實際上ハ幾分力安ク出來ルカ、斯ウ思ッテ居リマスカ、假ニ此通りノ料率デヤルト致シマシテモ、是ガ爲ニ漁船ノ所有者ガ保險ヲ掛ケラレナイト云フ程ノ負擔デモナカラウ、マア一應サウ考ヘテ居リマス、唯此保險料ト云フモノヲ成ベク支拂ヒ易イヤウニ、納メ方ニ付テ出來ルダケ便宜ノ方法ヲ講ジテヤル、例ヘバ漁業組合等ト連絡ヲ執リマシテ、漁獲物共同販賣ノ際ニ、賣上金カラ幾分ツツ天引ヲサシテ保險料ノ分納デモサセレバ、左程苦痛ガアルモノデヤナカラウ、斯様ニ考ヘテ居リマス、御話ノ如ク是ハ安ケレバ安イ程漁民ノ爲ニナルト思ヒ、將來出來ルダケ安ク實際運用ノ場合ニハ扱ッテヤリタイ、又扱ヘルダラウ、サウ云フヤウナ希望モ持ッテ居ル譯デゴザイマス

○多田委員

私ト水産局長ノ間ニハ、少シ認識ガ違ッテ居ルヤウニ思ヒマス、水産局長ハ此程度ナラバ掛ケラレナイコトモナカラウト仰シヤルノデスカ、ソレハ掛ケレバ掛ケラレドセウガ、私ハ漁業ノヤウナモノハ

將來日本ノ國策トシテ、大イニ發展シテ行カナケレバナライ事業ダト思ヒマス、サウシテ又漁業者ハ餘リ樂デハアリマセヌ、大キナ漁業者ハドウカ知リマセスケレドモ、所謂小漁業者ト云フモノハ、相當困難ヲシテ居ルト思ッテ居リマス、サウ云フモノニ對スル保險デアリマスカラ、掛ケレバ掛ケラレルト云フノデハナクシテ、成ベク之ヲ出來ルダケ、安クシテヤル、少クトモ或ル程度ノ補助ヲスルト云フ位ノ意氣込ミノアルコトガ必要ダト思ヒマス、現ニ少シ性質ハ違ヒマスケレドモ、對外貿易或ハ旅客輸送ニ從事シテ居ル商船、客船ナドニ付テハ、政府デ航路補助金モ出シテ居レバ、製造ニ付テノ助成金ヲ出シテ居ル、低利資金モ融通シテ居ルト云フ譯デ、非常ナ保護獎勵ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、漁業ニ向ッテハサウシタ設備ガナイノヲ、私ハ寧ろ遺憾ニ思フノデアリマシテ、數億ノ金ヲ取入レル漁業、而モ殆ド生命ヲ賭シテノ仕事デ、明日ヲモ圖ラレヌト云フヤウナコトヲ考ヘツ、此仕事ニ從事シテ居ル、而モ相當國益ニハナッテ居ル、斯ウ云フコトヲ考ヘテ見マセレバ、漁船ノ建造アタリニ對シテモ、私ハ相當ノ補助ヲシテヤッテモ宜イコト思フ、其位ノ意氣込ミデ以テ漁業ヲ發展セシメテ行カナケ

○原政府委員

此保險料ノ二圓三十九錢ヲ一圓五十錢ニスレバ、ドウ云フ結果ニナルカト云フ細カナ計算ハ、即席ニハ困難デゴザイマスカ、結論トシマシテハ、サウ致シマスト恐ラク特別會計ヘノ繰入金ト云フヤウナモノヲ、十二年度デ申セバ六万二千圓程ニナッテ居ルノデスカ、ソレガウント殖エルトニモナリマセウシ、又サウ云フ風ニナル結果、特別會計ノ獨立出來ルノガ十年目デハナシニ、二十年目ヲ待タナケレバ獨立出來ヌト云フヤウナ結果ニナルノデハナイカト思ヒマス、其結果ヲ避ケルニハ、結局保險料ト云フモノノ一圓五十錢ト二圓三十九錢トノ差額ヲ、國庫補助デモセザル限りニ於テハ、此計算ト辻褄ノ合ツク計理ヲスルコトハ困難ニナル、サウ云フ結論ハ免レヌト思ヒマス

レバ、ソレハ發展スルモノデアリマセヌ、デアルカラ、保險料金ノ如キモノモ、先ツ出來ルダケ下ゲルヤウナ方法ヲ講ジテ戴キタイト思ヒマス、ソコデ私ハ實地ニ即シテ伺フノデアリマスカ、茲ニ二圓三十九錢ト云フ計數ガ出テ居リマス、假ニ之ヲ一圓五十錢トシタ時ニドウ云フ缺陷ガ起ッテ、ドウシナケレバソレガ補充出來ナイカト云フトダケヲ一ツ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○多田委員 私が一圓五十錢ト云フノハ假定シタノデアリマシテ、必シモ一圓五十錢デナケレバナラナイト云フノデハナイ、ダケレドモ、一圓五十錢ニシタ場合ニハ、二圓三十九錢ト一圓五十錢ノ差額ダケハ、結局國庫デ補助シナケレバナラヌト云フコトデアリマスレバ、假ニ之ヲ一圓八十錢ト致シマシタ所デ五十九錢ニ相當スルモノヲ國庫デ補助スレバ宜シイ、斯ウ云フコトニナルト思ヒマスガ、サウシマスレバ國家ニ於テハソレダケノ支出ヲスルノデアリマセウケレドモ、前段カラ屢々申シテ居ルヤウニ、漁業者ヲ保護スルト云フ意味合カラ言ヘバ、私ハモウ少シ低下シテ、國庫デ以テ補助デモスルト云フヤウナ一ツ御考ニナッテ戴キタイト云フコトヲ申上ゲテ置クノデアリマス、此點ニ對スル當局ノ意見ヲ伺ヒタイ

○原政府委員 マア其點ハ私ノ方デモ、是デ絕對ニ國庫補助ノ必要ナシト云フ風ニ、將來ニ互ッテ必ズシモ斷言ヲスルコトハ少シ穩當デハナイカモ知レマセヌガ、一應之ニ依ッテ實行性ガナイトハ考ヘマセヌノデ、只今ノヤウナ御考ハ又實行ノ結果ニ徴シテ、十分ニ考ヘテ行キタイト思ヒマス

○多田委員 此保險料率ノ中デ保險金額百圓ニ對シ純保險料一圓六十三錢、附加保險料七十六錢ト、斯ウ書イテアリマシテ、附加保險料ハ要スルニ之ヲ事務費ニ充當スルノデアルト云フ御答辯デアリマシタ、所ガ此七十六錢ト云フモノハ一圓六十三錢ノ約半額ニナッテ居ルノデアリマス、斯ンナニ事務費ヲ出サナケレバ保險ノ運行ガ出來ナイノデアルカドウカ、此七十六錢ヲ更ニ二十錢デモ三十錢デモ減ラシテ、成ベク事務費ヲ節約シテ行ク途ガアルデハナイカト思フノデアリマス、之ヲ假ニ五十錢或ハ五十五錢ト云フコトニ減ラシタラ運用ガモウ出來ナクナルノデアルカ、或ハ我慢スレバヤレランダ、經費ヲ節約スレバ相當程度マデ行ケサウナ見込デアルト云フ御考ナノカ、之ヲモ一ツ併セテ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 其點ハ只今モ一寸申上ゲマシタ通りニ漁船保險組合一組合ノ事務費ノ平均ヲ二千圓ト見マシテ割出シテ居ル金額デゴザイマスガ、組合ノ平均二千圓ト云フノハ、私共少シ是ハ節約スレバ、モウ少シ安クテ濟ムノデハナカラウカトモ考ヘマス、漁船保險組合ハ漁船保險組合ト云フ獨立シタ組合デアリマスカラ、ソレニ相當シタ事務所モマア別ニ置カナケレバナラマイト云フ風ニ見テアルノデアリマスガ、實

際問題トシマシテハ、例ヘバ事務所ヲ漁業組合ノ一部ニ同居シテ我慢スルト云フヤウナコトニ依ッテモ、事務所費ノ節約ノ餘地モゴザイマセウシ、實際問題トシマシテハ、出來ルダケ多田サンノ御趣旨ノヤウニ指導ヲ致シマスレバ、モウ少シ安ク賄ガ出來ル、隨テ保險料ノ純保險料ノ方ヘソレヲ影響サセテ、純保險料ノ方モ其部分ダケ安クスル、保險料全體トシテ二圓三十九錢ガ、二圓位デ賄フコトモ場合ニ依レバ難カシイ事デモナイノデハナカラウカ、斯様ナ見當デ居ル譯ナノデアリマス

○今給黎委員 一寸料率ノ問題デアリマスガ、發言ヲ御許シ願ヒマス

○紫安委員長 今給黎君

○今給黎委員 只今御質問ニナッテ居リマスル其保險料率ノ問題デゴザイマスガ、先程御答ニナリマシタ一圓六十三錢、是ハ御配付ヲ願ヒマシタ計畫表ニ付テ御伺ヲ致シマス、二圓三十九錢徴收サレマシタ中、純保險料ガ一圓六十三錢ト云フコトニナリマシテ、組合ノ手取附加保險料ガ六十一錢、ソレカラ附加再保險料ガ十五錢トナッテ居リマス、所デ次ノ再保險料ノ料率表ヲ拜見シマスルト、茲デ元受デ御取りニナリマシタ一圓六十三錢ハ、其儘再保險料ノ方ノ純

再保險料ニ移ッテ居ルヤウデアリマス、所デ其次ノ附加再保險料ハ二十一錢トナッテ居ルヤウデアリマス、元受保險料率デ御取りニナリマシタ十五錢デハ六錢足りナイコトニナッテ居リマス、此不足ノ分ハドウナルデアリマセウカ、元受保險料率ノ組合手取附加保險料ノ六十一錢ノ中カラ補ハレルコトニナルノデアリマスガ、此點少シ分リマセヌノデ、御尋致シマス

〔委員長退席、飯田委員長代理著席〕

○寺田農林書記官 御答申シマス、只今御覽戴キマシタ表デ、元受保險料率ト再保險料率トノ數字ノ相違デゴザイマスガ、是ハ再保險料率ハ、再保險金額ノ百圓ニ對シマシテノ料率ヲ出シテゴザイマス、元受保險料率モ同様元受保險金額百圓ニ對シテノ數字ヲ舉ゲテゴザイマス、所デ再保險ノ方ニ付テ申上ゲマス、再保險ノ金額ガ元受保險金額ノ七割ヲ標準ト致シテ居リマスノデ、再保險料率モ自然再保險金額ガ元受保險金額ノ七割ノ割デ計算サレナケレバナラヌノデゴザイマス、ソレデ茲ニ舉ゲテアリマス數字デ申上ゲマス、純保險料率ハ元受保險、再保險ヲ通ジテ率ハ同様デゴザイマス、併シ附加保險料ノ方ニナリマス、再保險金額モ、元受保險金額ニ對スル割合ガ掛ッテ

居リマスノデ、七割ダケ此數字ニ現ハレテ居リマスノガ、ソレニ相當スル分ダケ加算サレテ居ル譯デゴザイマス、此表ニアリマス數字ハ元受保險ノ場合ト、再保險ノ場合ト違ッテ居リマスケレドモ、實際ニ支拂フ金額ハ同ジニナル譯デゴザイマス、以上御答ヘ致シマス

○今給黎委員 サウ致シマスト再保險ト云フモノハ、元受保險デ御取リニナッタ金ノ中カラ、其儘直チニ再保險ト云フコトガ成立スルモノト承知致シテ居リマス、保險ヲ掛ケマシタ者ノ出シマス方法ハドウナルノデゴザイマスカ、一遍保險組合デ御取リニナッタ金ノ中カラ、ヤハリ只今算出ニナリマシタソレニ相當スル金ヲ御差引ニナルト云フコトニナリマスカ、ソレガハッキリ致シマセス

○寺田農林書記官 御答申上ゲマス、保險ニ付ケマス場合ニ保險料ノ納付ハ一纏メニシテ組合ニ拂ヒマス、組合ガ受ケタ中カラ、更ニ再保險料ヲ政府ニ拂フ譯デゴザイマス、ソレデ尙ホ其點ニ付テ申上ゲマスト、此説明ニ書イテゴザイマス要旨ノ最初ノ十二頁ノ方デ、元受保險金額ニ對スル再保險料ノ額ト云フノガ、十二頁ノ真中頃ニ書イテゴザイマスカラ、御覽ヲ戴ケバ尙ホ能ク

御分リ戴ケルカト思ヒマス、以上デゴザイマス

○今給黎委員 マダ能ク分リマセスガ、私ノ方ガ分ラヌノカ知レマセスガ、兎ニ角或船ヲ保險ニ付ケタ、サウ致シマスルト其船主ガ百圓ニ對スル二圓三十九錢ノ保險料ヲ保險組合ニ納メタ、ソレガ其儘再保險料トシテ移ッテ行ク、元受ヲシマシタ保險組合カラハ一圓八十四錢ガ元受シタ組合カラ出テ行クノデアリマス、サウスルト結局先程申上ゲマシタ附加再保險料二十一錢ニ對シテ、元受ノ方デ十五錢取ッテ配當シテアリヤスカラ、不足ノ分六錢ハ組合ノ手取附加再保險料ガ減ズルコトニナル譯デアリマスカ、御分リニナリマシタカ

○寺田農林書記官 數字ニ付テ申上ゲマスト、元受保險料ガ二圓三十九錢ノ場合ニ於キマシテハ、其中純保險料ガ一圓六十三錢附加保險料ガ約七十六錢、是ハ動力附漁船デアリマスガ、ソレヲ例ニ取ッテ申シマスト其中再保險料ニ相當シマス金額ハ、元受保險金額百圓ニ付テノ數字ヲ申上ゲマスト、動力附漁船ニ付キマシテハ一圓二十九錢、即チ純保險料ヲ一圓六十三錢組合ガ取りマシタ中、純再保險料ガ一圓十四錢、ソレカラ附加保險料ノ方デ申シマスト、七十六錢

ノ中十五錢——先程申上ゲマシタ一圓二十九錢ト申シマスノハ、二圓三十九錢ニ對スルモノデアリマシテ、純再保險料ハ動力附漁船ニ付テハ一圓十四錢、附加再保險料ガ約十五錢デアリマス、サウ致シマスト其間ニ相違ノゴザイマス一圓六十三錢ノ純保險料ノ中カラ政府ニ納メル額一圓十四錢、之ヲ引キマシタモノガ組合ノ手取純保險料ニナル譯デアリマス、更ニ附加保險料ニ付テ申上ゲマスト、七十六錢ノ中カラ政府ニ二十五錢納メマシタ残りガ、組合ノ手取附加保險料ニナル譯デアリマス、唯保險料率ヲ出ス場合ニ於キマシテハ、元受保險ノ場合デモ再保險ノ場合デモ保險金額ノ百圓ニ付テ幾ラカ、斯ウ云フ風ニ料率ヲ定メマスノデ、料率ノ上カラダケ申シマスト、純保險料ニ付キマシテハ、元受ノ保險料モ、再保險料モ同率デゴザイマス、併シ實際ノ金額百圓ニ付テノ金額ハ、元受保險金額ニ對スル場合ト、再保險金額ニ對スル場合トゴザイマスカラ、實際ノ金額ニ付テハ變ッテ參リマス、ソレデ只今ノ今給黎サンノ御話ノ六錢ノ行方ト云フコトニ付キマシテハ、ソレハ數字ノ計算上ノ違ヒデアリマシテ、實質的ニハサウ云ツタ相違ガ起ッテ來ナイノデアリマス

○今給黎委員 分リマシタ

○多田委員 保險料率ニ付テハ水産局長カラ、此點ハ尙ホ安クスルコトガ出來ル見込ダト云フ御話ヲ伺ヒマシタ、一ツ此點ハ特ニ御盡力ヲ願ヒタイト思ヒマス、私トシテモ更メテ御伺スル機會ガアルカモ分リマセヌカラ、此點ハ此程度ニ止メマス、ソレカラ保險料金ヲ一年毎ニ掛ケルト云フコトニナリマスガ、此掛ケタ金額ヲ、船ノ損傷減失ノナカッタ場合ニ、多少デモ宜シイカラ加入者ニ割戻スト言ヒマスカ、返還スルト云フヤウナ風ニ考ヘラレナイノデアリマスカ、一寸之ヲ伺ッテ置キタイト思ヒマスカ

○原政府委員 御尋ノ趣旨ハ一年一年保險ヲ掛ケテ、保險料ヲ拂ッテ、何年カ經ッテモ事故ガナカッタト云フ場合ニ割戻ラヌルカドウカト云フコトダラウト思ヒマスガ、是ハ割戻スト云フコトハ考ヘテ居リマセヌガ、剩餘金ガ出レバ、剩餘金ノ分配ト云フ形ニ於テ、從來拂込ダ保險料ノ額ニ大體應ジテ、按分的ニ分配ラヌルヤウニ指導シテ參ッタラ宜クハナイカ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 保險金額ノ算定方法デアリマスカ、此要旨ヲ見マスト、保險金額ハ原則トシテ時價ノ七割ヲ標準トシ、時價ノ算定

ニ付テハ組合ニ於テ適當ナル評價方法ヲ講
ゼシムルコトトスルガ、大體ニ於キマシテ
時價ノ平均ハ、新造費ノ平均ノ七割ヲ標準
トシテ計算スル、斯ウ云フコトニナッテ居ル
ヤウデアリマスガ、保險金額ト云フモノハ、
サウシマス時價ノ七割ニ對シテ、又何掛
カシラ決メルト云フコトニナッテ居ルノデ
アリマセウカ、之ヲ一寸伺ッテ置キタイと思
ヒマス

○原政府委員 此時價ハ平均シマシテ、新
造費ヲ標準ニシテ、ソレノ七掛ヲ標準ニス
ル、其計算ニ依ッテ出マシタ時價ノ更ニ七割
ト云フモノヲ保險金額ニスル、斯ウ云フ目
安デ扱フ譯デアリマス、隨ヒマシテ其金額
ヲ保險ニ掛ケルト云フコトハ致サナイ、斯
様ナコトニ仕組ンデ居ル譯デアリマス

○多田委員 サウシマス、新造費ノ七割
ヲ時價ト見積ッテ、其時價ノ七掛ニ掛ケル、
斯ウ云フコトニナルノデアリマス、大體
分リマシタ、此點ヲモウ少シ考慮スル餘地
ハナカラウカト思ヒマス、新造費ノ平均七
割ト云フ行キ方ハ、少シ酷ニ失シヤセスカ、
ソレカラ又七割ノ又七掛ト云フコトモ、是
亦酷ニ失シヤセスカ、私共ノ考ヘ方カラ申
シマス、先ヅ是ハ新造費ノ八掛位ヲ時價
ト認メテ、其又八掛位ヲ保險金額トシテ認

メテ行クト云フ位ニスル方ガ、寧ロ適切デ
ハナイカ、而モ元來此法案ト云フモノハ、
漁業者ノ漁船ニ依ル資金化ヲ圖ッテ行クト
云フコトデ、何處マデモ立前トシテ漁業者
救済ノ見地ニ立ッテ居ルノデアリマスカラ、
斯ウシタ點モ一ツ保險料率ト共ニ御考慮ヲ
願ッテ、今少シ加入者ニ有利ナヤウニ考ヘル
御意思ハアリマセスカ

○寺田農林書記官 御説明申上ゲマス、只
今ノ保險金額ノ算出基礎ニ付テデゴザイマ
スガ、保險金額ニ付キマシテハ、時價ノ算
定ガ非常ニ難カシイ爲ニ豫算ノ編成ニ當
リマシテ、時價ノ算定ニ付テハドウシタラ
宜イカト云フノデ、新造費ノ七割ト云フ數
字ヲ採ッタクノデゴザイマス、是ハ水産局ニ於
テノ實査ノ結果、時價ハ大體新造費ノ七割
ニナル、斯ウ云フ結論カラ新造費ノ七割ヲ
時價トシテ決メタノデゴザイマス、ソレカ
ラ更ニ時價ノ七割ヲ保險金額トシテ算定致
シマシタノハ、過大ニナルノヲ避ケマシテ、
時價ノ七割ト云フ風ニ致シテ居リマス、之
ニ付キマシテハ、現在海上保險ノ實例ニ就
イテ見マシテモ、何レモ時價ノ七割ヲ標準
ニシテ居リマス關係上、計算ノ基礎ニ時價
ノ七割ヲ採ッテ居ルノデゴザイマス、隨テ此
計畫ノ立案ノ基礎ト致シマシテハ、七割ヲ

標準ト致シテ居リマスガ、實施ノ場合ニ於
キマシテハ、是ハ實情ニ合フヤウニ計算シ
ナケレバナラナイモノト考ヘテ居リマス、
以上デゴザイマス

○多田委員 今ノ御話ヲ伺ヒマス、時價
ノ七割ハ海上保險ノ例ニ依ッテヤッタノダ、
斯ウ云フ御話デアリマスガ、海上保險ト今
度ノ保險トハ、餘程性質ガ違フト思ヒマス、
是ハ何處マデモ漁業者保護ト云フ立前ヲ原
則トシテ居ルノデアリマスカラ、民間デヤッ
テ居ル保險ノ規定ヲ直チニ之ニ移シテヤル
ト云フヤウナコトハ、贊成シ難イノデアリ
マス、其新造費ノ平均七割ヲ時價ニ見積ル
ト云フ此算定方法ガ、非常ニ困難デアル、
併シ是ハ私共敢テ言フ譯デハアリマセヌ、
アナタ方技術家ノ方デ適當ナル方法ガ見出
サレルヤウナラソレデ宜シイケレドモ、今
ノ御答辯ノヤウデハドウモ承服シ難イノデ
アツテ、此點ハ何カ考慮スル餘地ハナイカ、
時價ガ新造費ノ七割ト云フコトニナッテ居
リマスカラ、ソレノ八割位トシタ所デ、サ
ウ算定ノ基礎ヲ狂ハス惡イ影響ヲ與ヘルト
云フコトハナカラウト思ヒマスガ、是ハ一
ツ局長ノ御答辯ヲ伺ッテ置キタイ

○原政府委員 此保險金額ヲ時價ノ七割ニ
平均致シマシテ、之ヲ見込ンデ居ル事情ハ

只今説明員カラ申上ゲマシタヤウニ、民間
ノ海上保險ノ實際ノ取扱ニ於テモ、サウ致
シテ居ルト云フコトモ參考ニシマシタガ、
ソレハ民間保險デサウヤッテ居ルカラ、唯ソ
レヲ單純ニ眞似シテヤッタト云フ譯デハア
リマセヌノデ、粗ヒ所ハ所謂超過保險ニナ
ルコトヲ防グ趣旨ニ於テ、民間デモサウヤッ
テ居ルノデアリ、又此漁船保險ニ付キマシ
テモ、其點ヲ避ケル意味ニ於テ、七割ガ
平均トシテハ適當ナ割合デアラウ、斯様ニ
考ヘマシタノデ、時價ノ八割ハ絕對ニ保險
金額ト出來ナイカト云フ點ニナリマス、
必シモソレハサウ考ヘテ居リマセヌノデ、
説明員ノ申上ゲマシタ通り、是ハ漁船保險
組合ニ於テ、實際經理ノ出來ル限りハ七割
ヨリ割合ヲ高メテ、幾分デモ多ク保險金額
ニ加ヘタイ、保險金額ガ多クナリマス、ト云
フ一面ニ於テ、保險料モ高クナリマスカラ、
サウスルト船主ノ保險料ノ負擔トモ睨ミ合
セナケレバナリマセヌガ、サウ云フ風ニソ
レハ必シモ釘付ケノ割合トハ、私共ハ考ヘ
テ居リマセヌノデスカラ、唯其御趣旨ニ大
體合フヤウニ實際ハ運用シテ參リタイ、斯
様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 成ベクサウシタ方針ヲ運用シ
テ行クトヲ希望シマス、ソレカラ一寸伺ッ

テ置クコトハ、動力船ト無動力船ノ遭難ノ割合ハ、ドンナコトニナツテ居リマスガ、伺ヒマス

○寺田農林書記官 動力船ト無動力船ノ遭難率ノ點ニ付キマシテハ、大體動力船ノ方ガ、遭難率ガ高イ譯デゴザイマス、隨ヒマシテ此保險料率ハ、遭難率ノ危險率ヲ基礎ト致シマシテ、ソレニ安全率ヲ加算シテ居リマスノデ、其相違方直チニ從來ノ實績ニ依ル危險率ノ相違ト見テ戴イテ差支ナイト考ヘマス

○多田委員 此保險要綱ヲ見マス、非常ニ動力船ニ重キヲ置イテ、無動力船ヲ餘リ構ハヌヤウニ見ラレル、併シ之ニ附加ヘテ動力船ハ段々餘計ニナツテ來ル、無動力船ハ段々減ツテ來ル現狀デアアル、ダカラサウ構ハヌノデアアルト云フ風ニ現レテ居リマスケレドモ、併シ時代ノ進運ニ依ツテ、動力船ガ多クナルト云フコトハ當然デアリマスガ、併シ小漁業者ニナリマス、現在デモ可ナリ無動力船ヲ使ツテ居リマス、減ルト云フコトハ必シモ時代ノ進運ニ伴ツテ減ルト云フコトバカリデモナカラウカト思フノデアリマス、資力ノ關係モアラウト思フ、無動力船ヲ使フ位ノ人ハ資力ノ少イ人ダト云フヤウナコトデ、資金難ノ關係カラデモ、ヤハリ原因

シテ居ルノデナカラウカト思フ、所デ此漁業者救済ノ立前カラ言ヒマス、ト云フト、斯ウシタ小サイ漁業者、無動力船ヲ以テ活動シテ居ル者ヲ、寧ロ餘計保護スルト云フヤウナ立前デ、一ツ行ツテ戴イタ方宜イデハナイカト思ヒマスガ、之ニ依リマス、ト云フトサウデハナクテ、寧ロ動力船ノ方ヲ主トシテ考ヘテ居ルヤウニ見エマスガ、此點ニ對シテ、モウ少シ無動力船方面ヲ保護シテ戴キタイト思ヒマスケレドモ、此點ニ對シテ御意見ヲ伺ツテ置キタイト思フ

○原政府委員 此要綱ノ實施ノ計畫デ、動力船ハ何隻何噸、無動力船ハ何隻何噸ト云フ風ナ加入ヲ豫想シテ居ルノハ、是ハ大體動力船ノ増加傾向、無動力船ノ漸減ノ傾向ト云フモノモ、多少考ヘマシテ決メタコトハ事實デアリマスガ、是ハ一寸御斷リ申上ゲテ置キマスガ、是ダケノ船ガ保險ニ入レバ、此計算デハ保險ガ成立ツ最小限度ノ數デアアル、サウ云フ意味ノ數デゴザイマシテ、實際ノ保險ノ運用ニ當リマシテハ、多田サンノ御話ノ如ク、是ハ主トシテ百噸以下、其中デモ動力ノナイヤウナ船ガ澤山アル所ハ、サウ云フモノヲ事實上主トシテ見テ參ラナケレバナナルマイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 能ク分リマシタ、所デ此保險ノ普及方法デアリマスガ、今マデ色々法律ガ出來マス、出來マスケレドモ中々旨ク行ツテ居リマセヌ、此處デ一々例ヲ舉ゲル必要モアリマセヌケレドモ、自作農維持創定ニシテモ、負債整理ニシテモ、農民ヲ救済スルト云フ立前カラ行ツタ所デ、是ガ十分普及シナイト云フノガ現狀デアリマス、此漁船保險ヲ實施スルニ當ツテモ、私又ソレト同ジヤウナ感ジテ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、目的ハ極メテ宜イ、目的ハ宜イケレドモ、是ガ普及ハ中々困難デハナイカ、茲ニ適當ナ數ヲ豫想シテ、第一年度ノ昭和十二年度カラ五年度、即チ昭和十六年度マデノ五箇年毎年度三十組合、昭和十七年度カラ五年度、即チ昭和二十一年度マデノ五箇年ニ毎年度各十組合、隨テ二十一年度末マデノ組合設立豫定數ハ總數二百組合デアアル、私共カラ見マスモウ少シ之ヲ餘計ニシテ戴キタイトデアリマスケレドモ、我慢ガ出來ヨウト思ヒマスガ、併ナガラ是ガ果シテ實行出來ルカドウカト云フコトハ疑問デス、私共ハ今マデノ各方面ノ行キ方カラ見マス、ドウモ少シ困難デハナカラウカト

失禮ナガラ考ヘテ居ルノデアリマス、隨テ此點ニ對シテ、政府當局トシテハ十分ナ指導ヲシテ行クト云フコトニシナケレバナラヌト思ヒマスケレドモ、此漁船保險組合ノ普及ニ付テ、ドウ云フ對策ヲ御持チニナツテ居ルカ、之ヲ改メテ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○原政府委員 御話ノ如ク漁業者ニ保險ノ思想ヲ持タセルト云フコトハ、是ハ保險事業ノ中デ一番困難ナ點デヤナイカト實ハ思ツテ居リマス、ソレデアリマスカラ、此方面ニ全力ヲ盡シテ、保險思想ノ涵養、普及、又保險組合其モノノ指導ト云フ風ナコトニ力ヲ盡サナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレデ本省ニモ一般會計、特別會計ノ方ニ所謂指導職員ト云フヤウナモノモ多少置キマスガ、地方廳ニモ指導職員ヲ相當數設置費ノ補助ヲ致シマシテ置カセル、又是等ノ地方廳ノ宣傳、指導ノ外ニ、例ヘバ水産會デアリマス、漁業組合デアリマス、サウ云フヤウナ漁業者ノ各種ノ團體等ニモ、先ツ保險ノ知識ヲ持ツテ貰ツテ、サウシテソレ等ノ人々ヲ通ジテモ、一人一人ノ漁業者ニ十分徹底スルヤウニ指導ヲスル必要モアル、斯様ニ考ヘテ居リマス、只今モ申上ゲマシタ府縣ノ指導職員ノ設置費補助ノ外ニ、講習、宣傳、指導等ヲ水産會等ニ委託ヲスル費用モ、十二年度ハ六千圓

等ニ委託ヲスル費用モ、十二年度ハ六千圓

バカリゴザイマスガ、サウ云フ經費モ見テ居リマシテ、是等モ私共最モ其點ニ先ヅ力ヲ入レナケレバ、唯「パンフレット」ヲ配ッテ、ソレデアト續々加入スルト云フ風ニ、高ヲ括ッテ居ル譯ニハ、到底參ラヌヤウニ考ヘテ居リマス

○多田委員 其點ハ最モ重要ナルコトデアリマスシ、又當局トシテモ其點ヲ御認メニナッテ居ルヤウデアリマスカラ、更ニ又一段ノ努力ヲ費サレマシテ、此保險組合ノ十分普及シテ完全ニ運用サレンコトヲ希望致シテ置キマス

ソレカラ此漁船ノ減失トカ損傷、或ハ行衛不明トカ色々アリマセウ、詰リ保險ト關聯シテ考ヘテ見マス、其審判ヲスル機關トデモ言ヒマスガ、凡ソ其損害、損傷ノ程度ヲ定メル機關ハ、ドウ云フコトニナッテ居ルノデアリマスガ、之ヲ伺ッテ置キタイ

○原政府委員 損害ノ判定ニ付キマシテハ、誰ガ決メルカト申セバ、元受ノ關係ニ於キマシテハ、漁船保險組合ガ損害額ヲ決メル譯デアリマスガ、組合ガソレヲ決メルニハドウ云フ人ガ、ドウ云フ風ニシテ決メルカト云フコトヲ申上ゲマス云フト、組合ニ其損害ノ算定ノ一種ノ評價委員會ノヤウナモノヲ拵ヘサセタイト思ッテ居リマス、

其委員會ニハ其組合ノ漁船ニ付テ明ルイ技術者デアルトカ、或ハ組合員ノ中デモ、特ニ其組合員ノ船ニ付テ能ク知ッテ居ルデアリマスルトカ、又組合外ニ於キマシテモ水産會ナリ漁業組合ナリノ職員デ、能ク漁船ニ付テ知識經驗ヲ持ッテ居ル人ガアレバ、サウ云フ人モ加ヘルコトニ大體サセタイト思ッテ居リマス、唯漁船保險組合ハ、所謂漁船

ノ所有者デ御互ガ能ク知り合ッテ居ル人同志ノ綜合組織ノ組合デアリマスカラ、地方ニ於キマシテ大體誰ソレノ何丸ハドウ云フ船デアるか、大體何時拵ヘテ今ドウ云フ仕事ヲシテ、ドウ程度ニ古クナッテ居ルカト云フヤウナコトヲ、比較的皆知合ッテ居ル人デアリマスカラ、比較的其評價ガ簡單ニ出來ヨウカト思ヒマスガ、又一面ニ於キマシテ氣ヲ付ケナケレバナリマセヌコトハ、毎日額ヲ合セテ居ル人達ノ寄合デアルダケニ、御互ガ其損害ヲ多ク見積合フヤウナコトニナリマス、是ハイケマセヌカラ、其點ヲ半バ監督スル意味ニ於キマシテモ、亦其損害ノ判定其モノニ付テ、相談ニ與カル意味ニ於キマシテモ、先程申上ゲマシタ府縣ノ職員ナンカモ是非參加ヲサセタイ、ソレカラ元受ノ關係ト同時ニ、再保險ノ關係ガ生ズル譯デアリマシテ、是ハ結局ニ於テ

損害ガアレバ、政府ノ特別會計ニ負擔ヲ生ズル關係ニナリマスカラ、農林省ノ職員モ出來得ル限りハ損害ノ評價ニ、最初カラ立會フヤウニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○多田委員 此點モ中々重要ナ事デアリマスカラ、一ツ當局者トシテモ、特ニ御注意ヲ願ハナケレバナラヌト思ヒマスガ、一體今マデ漁業組合ナドデモ隨分色々事件ガ起ッテ居マス、隨テ當局ノ監督ナドニ付テモ、隨分御困リニナッテ居ルコトガアラウト思ヒマスガ、斯ウシタ組合ナドデモ、必ズヤ將來幾多ノ難カシイ事柄ガ起ッテ來ルデアラウト云フコトハ、今カラ想像ニ難クナイノデアリマスカラ、特ニ政府當局ニ於テハ一面ニ於テ此組合ノ指導ヲ十分ニスルトカ、而シテ監督ヲ嚴重ニスルト云フコトニシテ、萬誤リナイヤウニ今カラ御注意願ヒマス、段々長クナリマシタシ、外ニ質問サルル方モ居リマスノデ、是レ以上質問ヲ差控ヘタイト思ヒマス、唯終リニ一ツ伺ッテ見タイト思ヒマスガ、此漁船保險ヲ制定スルト云フコトハ、度々申シマスヤウニ結構ナコトデアリマスガ、漁船保險ヲ作ラナイデモ、濟ムヤウナ方法ヲ執ルト云フコトガ、一番宜イコトデアラウト思フ、即チ遭

難ヲ未然ニ防止スルコトガ必要ダト思ヒマス、所デ此點ハ漁船保險ト密接ナ關係ガアリマスカラ、政府ハドウ云フ御考ヲ持ッテ居ルノカ、又ドシナ施設ヲ講ジヨウト致シテ居ルノカ、之ヲ一ツ伺ヒタイト思フノデス、所デ私ノ意見ダケヲ此處デ申述ベテ御批判ヲ仰ギタイノハ、先日來本會議デモ儲カアリマシタ、委員會デモアッタト思ヒマスガ、マダ船溜或ハ漁港ガ十分完成シテ居ナイ、是ハ事實デアリマス、農林省ノ諸君ガ此點ニ付テ、小漁港、船溜、是等ノ設備ヲ完全ニシヨウトシテ御骨ヲ折ラレルコトハ、私共能ク承知致シテ居リマス、又相當敬意ヲ拂ッテ居ルノデアリマスケレドモ、完成シナイ部分ガ頗ル多イ、例ヘバ私共ノ郷里ノ富津町ノ農業組合デ船溜ヲ造ッテ居ル、所ガ是ガウマク參ッテ居ラナイ、折角ヤリ掛ケタモノガ資金ガナイ、補助金ガナクテウマク行カナイノデ、寧ロヤラナカッタ方ガ宜カッタト云フヤウナ感ジヲ懷ク場合ガアル、全國デモ幾ラモアラウト思ヒマスガ、此漁港、船溜ノ竣成ト云フコトハ、海難防止ノ一ツノ有力ナル施設ニナルノデアリマスカラ、是等ノ點モ十分完成スルヤウニ、政府トシテモ努力ヲシテ戴キタイト、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ又船

ニ對シテ何等カ適當ナ施設ヲスル必要ガアルノデハナイカ、現在デハ百噸以上ノ船ニ對シテハ、無線ノ施設ヲスルコトニナツテ居リマスケレドモ、之ヲモウ少シ下ゲテ行ッテ三十噸、四十噸位ノ船ニデモ無線ノ施設ヲスルヤウニシ、萬一ノ場合ニ當ッテハ、直グソレニ依ッテ自分達ノ船ノ危險ニ陥ラヌヤウニ努力ヲスルト云フヤウナコトモ考ヘテ行ク必要ガアラウ、斯ウシタコトモ考ヘラレルノデアリマスガ、更ニ又船體ノ検査或ハ製作上ニ對スル監督、是等ニ付テモドウ御考ニナツテ居リマスガ、漁船保險ヲヤルト同時ニ、此二ツノ點ヲモ特ニ注意シテ行ク必要ガアラウト存ジマス、私ハ一々後デ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマスカラ、ズット箇條書的ニ申上ゲテ見タイノデアリマス、ソレカラ又船員ニ對スル教育指導方法、船員ガドウモ餘リ宜シクナイト云フコトデアリマスレバ、斯ウシタ船員ニ依ッテ運行サレテ居ル漁船ガ、動トモスレバ遭難ノ率ガ多クナルト云フコトハ、是ハ當然デアリマスカラ、是等ニ對シテモ十分ノ教育指導ヲヤツテ行ク、之ニ對シテドウ云フ設備ヲナサントシ、ドウ云フ方法ヲ講ゼントスルノデアルカ、是等モ伺ッテ置キタイト思ヒマス、又私共ノ聞イテ居ル範圍デハ、帝國水難救濟

會ト云フモノガアリマス、體カ松平サンガ會長カト思ッテ居リマスケレドモ、其水難救濟會ハ、モウ既ニ長イ間遭難救助ト云フコトニ付テ努力ヲシテ居ルノデアリマス、私ノ調べタ所ニ依リマシテモ、救難所ガ百八十一箇所アリマス、ソレカラ創立以來今日迄ノ救助回數ガ、一万四千三百五十四回、隻數ニシテ西洋型六千七百七十九隻、日本型九千百隻、是等ノ船ノ見積價格ハ一億一千二百三十四萬圓、救助人員ダケデモ八千人、斯ウ云フ莫大ナ數字ニ達シテ居ルノデアリマシテ、斯ウシタ施設ガ如何ニ我ガ日本ノ海難ニ對シテ貢獻シテ居ルカト云フコトハ、明瞭ニナツテ居ルノデアリマス、隨テ漁船保險ヲ設ケル、其禍ヲ未然ニ防グト云フコトニナリマスレバ、斯ウシタヤウナコトニ付テモ一ツ考慮シテ行キ、出來ルコトデアルナラバ、遞信省デモ水難救濟會ニ補助ヲシテ居リマスガ、農林省ニ於テモ相當關係ヲ持ッテ居リマスカラ、アア云フ機關ヲ一ツ補助ナリ、助成ナリヲシテヤルト云フヤウナコトガ適當ナコトデハナカラウカ、斯様ニモ思フノデアリマス、更ニ又出漁ニ對シテ何等カ適當ナ方法ヲ設ケナイカ、現在デハ一隻ヲ以テ飛廻ッテ出漁スルト云フコトノ爲ニ、遭難ノアツタ場合ニ非常ニ困ルコ

トガ多イノデアリマスガ、二隻連合ッテ出漁スル、例ヘバ一定ノ方向ヲ決メテ、此方面ニ行クノハ一隻デハイカンノダ、二隻位デナケレバイカナイト云フヤウナ、一ツ規則デモ設ケルト云フヤウナ工夫ヲ立テル途ハナイカト云フヤウニ考ヘルノデアリマスカラ、又外國ニハサウ云フ例ガアルヤウデアリマスガ、巡邏船ガアツテ、是ガ始終遭難ヲ見張ッテ居ル、或ハ又出先デ修繕モスルト云フヤウナコトモ致シテ居ルノデアリマスカラ、コンナヤウナ施設ニ對シテモ、政府デ適當ナ方法ヲ講ジテ行キマスレバ、遭難ヲ未然ニ防グト云フヤウナコトモ出來ヨウト存ジマス、其他ニ全國ニ適當ナ見張所デモ設ケテ、遭難ヲ防止スルコトニ努力ヲスルト云フヤウナコトモ考ヘラレテ居リマスカラ、斯ウシタ海難防止施設、即チ今申上ゲマシタヤウナ施設ニ對シテ、當局トシテハドウ云フ御考ヲ持ッテ居ラレルノカ、一ツ御意見ヲ伺ッテ置キタイト思ヒマス、私共ハ漁船保險法ト遭難防止施設ト云フモノハ、兩相俟ッテ離ルベカラザルモノデアツテ、ドウシテモサウ云フ施設ヲ設ケテ行カナケレバナラナイ、政府トシテモ出來ルダケ金ヲ出スガ宜シイ、努力モスルガ宜シイト考ヘテ居ルノデアリマスカラ、此點ヲ伺ヒマシ

テ、私ノ質問ヲ終ルコトニ致シマス
○原政府委員 只今ノ海難防止ニ付テノ御意見ハモウ一々御尤モト思ヒマス、漁港、船着場ニ致シマシテモ、御案内ノ如ク修築ヲ要スル箇所ガ非常ニ澤山アルノデゴザイマスガ、毎年修築補助ヲ決定シ得ルノハ、モウ僅ニ數箇港ニ過ギナイト云フヤウナ状態デゴザイマシテ、是ハモウ是非何等カノ形ニ於テ、速ク解決ヲシナクチャナラヌト云フ風ニ考ヘテ、將來共出來ルダケノ努力ヲスル考デアリマス、ソレカラ漁船ニ無電ヲ設備スル點モ、御話ノ如ク是ハ海難防止上、最モ有效ナ裝置ト考ヘマスノデ、現在デモ遠洋漁業獎勵補助金ノ中デ、百噸以上ノモノヲ大體原則的ニ見テ居リマスガ、實際ノ扱ヒト致シマシテハ、百噸ニ滿タナイ船デモ、出來ルダケハ無電ヲ設備サセルヤウニシテ居リマスガ、是ハ何分元ノ豫算ガ輕少ナモノデゴザイマスカラ、思フ様ニナラナイノハ遺憾デゴザイマスガ、海難防止ノ意味ニ於テ、非常ニ必要ダト云フコトハ御同感ニ存ジテ居リマス、ソレカラ漁船ノ検査デゴザイマスガ、是ハ出來上ッタ船ノ検査ハ、御承知ノ通りニ大體遞信省關係デ検査ガアリマスガ、造船中ノ監督検査ト云フモノガ未ダ漁船方面ニハ、殊ニ備ッテ居リ

マセヌノデ、現在水産局ニ船ノ方ノ役人ガ
三四人居ラレマシテ、始終民間ノ船ヲ注文
スル人カラ、彼處ノ造船所ヘ頼シテ見
廻テ監督ラシテ貫ヒタイ、検査ラシテ貫ヒ
タイト云フ依頼ガアリマシテ、忙殺サレテ
居ルヤウナ状態デゴザイマシテ、將來是ハ
或ル程度制度ヲ立テルヤウニ參リタイ、斯
様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ船員ノ素質
改善ニ付キマシテモ、御話ノ通りデゴザイ
マシテ、如何ニ船其ノモノガ良クナリマシ
テモ、之ヲ運行スル——又無電ノ裝置ノ如
キモノニナリマスルト、殊ニ之ヲ扱フ所ノ
人ガ、未熟ナ人デハ何ノ役ニモ立タヌ譯デ
ゴザイマスカラ、從來漁船技術員ノ養成ノ
機關ガ民間ニアリマシテ、毎年相當數ノ人
ヲ集メテ講習ヲヤツテ居リマスノデ、ソレ
等モ五六千圓ツツ經費ヲ

〔飯田委員長代理退席委員長着席〕

補助致シマシテ激勵シテ居ル譯デアリマ
スガ、是モ今後モト擴充ヲ要スルコトト
考ヘテ居リマス、ソレカラ水難救濟會ノ御
話モ出マシタガ、是モ御話ノ如ク、水難救
濟會デ毎年相當ノ救助ヲ致シテ居ルノデ
アリマシテ、大部分漁船ガ御厄介ニナツテ
居リマスコトハ、自分モ聞イテ居リマス、
斯ウ云フ風ナ海難ノ防止ノ團體等ノ活動促

進方モ、何等カモウ一段ト考方ヲ進メテ行
キタイ、斯様ニ考ヘマシテ、遞信當局トモ時
時話合ラシテ居ル譯デアリマス、ソレカラ
出漁ノ場合ニ、單獨ニサセナイデ隊ヲ作ッテ
出スヤウニ、規則デモ決メル考ハナイカ
ト云フ點ハ、マダ規則デ以テ直グヤラウト云
フヤウナ考ハ、率直ニ申上ダレバ、持ッテ居
リマセヌ、ト云フノハサウ云フコトガイカ
ヌカラヤラスト云フ意味デハ決シテアリマ
セヌデ、千葉縣ニ於キマシテモアッタカモ知
レマセヌガ、和歌山縣邊デハ漁船隊ヲ組織
シテ出漁シテ、大變好イ成績ヲ擧ゲテ居ル
ト云フコトデゴザイマスカラ、目下サウ云
フヤリ方ノ調査ヲサセテ居リマス、是ハ規
則デサセルト云フコトデハナクシテ、指導
獎勵ヲ方針トシテ取入レルト云フコトモ適
當デハナカラウカ、斯様ナ考ヲ以テ調査中
デゴザイマス、大體ニ於キマシテ此海難防
止ニ付テノ御意見ハ、私共ノ方デモ今後十
分ニ考ヘテ參ル必要ガアルト思ッテ居リマス

○多田委員 海難防止ニ付テ政府當局ガ十

分ノ考慮ヲ拂ハレル、又私ノ申上ダタ所ニ
付テモ、大體御同意ノヤウデアアルコトハ、
結構デアリマスカラ、更ニ一段ノ御助力ヲ
願ヒタイト思ヒマス、私ハ尙ホ伺ヒタイ點
ガアリマスガ、餘リ時間モ掛カリマスノ

デ、一應是デ質問ヲ止メテ置キタイト思ヒ
マス

○登坂委員 午前中ニ原政府委員ト東條委

員トノ間ノ質問應答ニ關シマシテ、一點御
尋致シタイト思フノデアリマス、實ハ其際
直ニト思ヒマシタガ、遠慮致シタノデアリ
マス、其點ハ内國産業、外國産業ト云フヤ
ウナ御話合ノ下ニ、我國ノ北洋水産資源ノ
點ニ關シマシテ、如何ニモ現在ノ局面ノミ
ヲ御覽ニナツテノ政府委員ノ御説明ノヤウ
ニ、私ハ印象ヲ受ケタノデアリマス、此點
ハ非常ニ我國ノ水産資源ノ根本問題ニモ觸
レル重要ナ點デアアルト思フノデ、改メテ原
政府委員ノ御話ヲ承リタイト思フノデアリ
マス、午前中ノ御話デスト、北千島ノ水産、
所謂内國水産産業ヲ保護スル爲ニハ、從來
ノ露領沿岸漁業若クハ其沖合ノ沖取漁業ニ
從事致シテ居リマス太平洋漁業、是等ノ關
係者ヲ遠ク「アラスカ」方面ニ轉出セシメ
テモ調節爲シ得ルノデハナカラウカト云フ
ヤウナ、一寸私ハ印象ヲ感ジタノデアリマ
ス、是ハ由々シキ一ツノ推論ヲ生シデ來ル
カト思フノデアリマシテ、サウ云フ意味合
デハ毛頭ナイト確信致シマスガ、特ニハッキ
リ致シテ戴キタイト思フノデアリマス、私
共承テ居リマスル所ニ依リマス、即チ沖

取漁業、太平洋漁業ト云フモノハ、日露漁業
條約ニ依ッテ、確保サレマシタ露領漁業、即
チ陸上沿岸ノ露領漁業ヲ牽制スル爲ニ、此
沖取漁業ト云フモノガ「カムチャカ」ノ沖

ニ生ジテ來マシテ、之ニ對シマシテ農林當
局モ其趣意ヲ贊シテ許可ニナリマシタガ、
漸次其隻數ガ非常ニ殖エタ、即チ水産資源
ノ濫獲ト云フヤウナ話合ニナツタ爲ニ、其業
者ヲ懲罰シテ大合同ヲ爲サシメテ、サウシ
テ其會社モ立チ、又水産資源ノ確保モ出來
ルヤウニ、嚴選ノ方針ヲ農林當局ガ特ニ御
執リニナツテ指導ナサレタト承ッテ居リマ
ス、或ハ數百萬圓ノ犠牲ヲ拂ッテ嚴選ヲ致
シテ、其損失ヲ同會社ガ漸次後年度ニ於テ
補填セント、今日デモ努メツアルト云フ
コトヲ聞イテ居リマス、是ハ即チ最近我國
ノ水産國策ノ殆ド輿論トモナツテ居リマス
ル水産資源ノ涵養増殖ト云フコトノ、根本
國策ノ水産當局ガ實行ナサレタ一ツノ政策
ノ發露ダト思ッテ居ルノデアリマス、是ハ既
ニ沿革ヲ見マスレバ、露領ノ沿岸漁業ト云
フモノハ三十數年來、沖取漁業ト云フモノ
モ既ニ十年内外ノ經過ヲ以テ、非常ニ其間
苦心慘憺致シテ居リマス、今日コソ雙方合
セテ殆ド五千萬圓ト云フヤウナ生産額ヲ示
シテ居リマスルガ、易々ト今日ノ産業ヲ確

立シタ譯デハナイ、當業者ハ非常ナル苦心ヲ拂ツテ、此特典ヲ企業化シ、産業化シテ參タモノダト思フノデアリマス、然ルニ最近北千島ニ流シ網ト云フモノガ、北海道廳ノ許可ニ依ツテ發生シテ參ッタ、丁度午前中ノ政府委員ノ御話ノ如ク、其魚族ノ回游狀態ガ非常ナ密接ナ關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、其爲ニ今日デハ非常ニ此問題ガ北海方面ニハ錯綜致シテ參ッテ居リマシテ、農林當局ニ於キマシテモ、非常ナ御心勞カトハ拜察致シテ居リマス、併ナガラ之ニ對スル對策ヲ餘程慎重ニ御考ヘ下サイマセスト、北洋若クハ北海方面ニ於ケル所ノ漁業ト云フモノガ、雙方トモ引合ハナイト云フヤウナ立場ニナルト云フコトヲ、私ハ憂ヘルノデアリマス、所謂根本問題トシテハ、北洋漁業モ北千島漁業モ雙方トモ成立ッテ、本當ニ企業化サレタル水産事業トナッテ、我國ノ水産國策ヲ助ケルト云フ意味ニハ毛頭變リハアリマセヌガ、唯午前中ノヤウナ極ク淡白ナル御高見ヲ拜承致シマスルト、恐ラクハソレニ關聯ヲ致シテ居リマス所ノ多クノ從業員ト云フモノハ、所謂信賴ヲ致シテ居ル所ノ農林當局——政府ニ對シマシテ多少ノ不安ヲ感スルヤウナ嫌ガアルノデハナカラウカト云フヤウナ感ジガ致スノデアリマ

ス、單ニ言葉デ外國産業、或ハ内國産業ト云フヤウニ、今ノ北洋漁業ト北千島漁業ト云フモノヲ片付ケラレマスケレドモ、北緯五十一度デアリマスルカ、其線ヲ境ニシテ北洋漁業、或ハ北千島漁業、一方ハ農林省ノ管轄、一方ハ北海道廳ノ管轄ト云フコトニナッテ居リマスルガ、折角農林當局ガ國策トシテ非常ナ犠牲ヲ拂ハレ懲憑ヲ致サレテ出來上リマシタ此太平洋漁業ト云フモノノ基礎ヲ、地方廳タル北海道廳ノ水産政策ニ依ツテソレヲ搔キ亂シ、或ハ不安ノ狀態ニ陥レテ、双方トモ無駄ナ相剋關係ヲ生ジテ、所期ノ目的ヲ逸スルト云フヤウナコトデハ、非常ニ危險ナコトト考ヘマスルノデ此點ハ所謂沿岸漁業ノ水産資源ノ涵養増殖スルト同様ノ意味合ニ於テ、我國ノ北洋、北海方面ニ於ケル所ノ水産資源ノ涵養増殖ト云フコトニ、重大ナ關係ガアリマスルノデ、篤ト當局ノ御所信ヲ承リタイ、内國、外國ト言ヒマスルガ、即チ此北洋漁業「カムチャカ」ニ出動致シマスル所ノモノハ、北海道、東北方面ノ漁民デアリマス、沿岸漁民モ參リマスルガ、數万人ノ人ガ東北カラ、或ハ北海道ニ掛ケテ年々親子諸共、殆ンド定期ノ仕事ノ如クニシテ、毎年參ッテ居ルト聞イテ居リマス、太平洋漁業ニ於テモ同様

デアリマスルシ、又物資ト雖モ全部我方國內カラ持ッテ行クノデアリマス、名前ハ外國ノ領域ニ於テヤルト申シマスルケレドモ、實質ハ内國産業ト毫モ變リハナイ、サウシテ露領ニ於ケル所ノ、或ハ公海ニ於ケル所ノ魚族ヲ漁獲致シマシテ、之ヲ罐詰製品ニシテ外國ニ輸出スル、本當ノ純益ト云フモノノミ我國ガソレヲ受入レマシテ、サウシテ之ヲ廣ク東北、北海道或ハ總テノ我國ノ水産業方面ニ長年貢獻致シテ居リマス、是等ノ沿革ヲ、殆ド午前中ノ御話ヲ拜聽致シテ居リマスト云フト、固ヨリ腹中ニハ御持合セデアリマセウケレドモ、私共多少同方面ニ渡航致シテ、其實情等ヲ體驗致シマシタ者カラ見マスルト、餘リニ淡白ニ片付ケラレト思フ、其間ニ外國ニモ關係致シタコトデアリマスルカラ、或ハ「ソビエト」當局等ハドウ云フ作用ヲ施シテ參ルカ分ラヌ、ドウカ此邊ハ北洋モ北海モ共ニ水産企業トシテ、長ク成立致シマスルヤウニ御考ヘヲ賜ッテ、サウシテ午前中ノ北洋漁業ガ、更ニ北千島ニ追ハレテ「アラスカ」ナリ「ベリリング」ノ方面ニ轉出シテモト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、同感ノヤウナ御趣意デアッタコトヲ、私ハ私ノ聽達ヒダトハ思ヒマスケレドモ、左様ナ印象ヲ受ケマシタガ

故ニ、更メテ其點ノ御高見ヲ拜聽致シタイト思フノデアリマス

○原政府委員 午前中ニ東條委員ノ御質問ニ對シテ、私ノ御答シタコトガ、登坂サンノ非常ナ御心配ヲ誘發シタトスレバ、洵ニ遺憾ニ存ジマスノデ、私ト致シマシテモ、モウ一度ハッキリ申上ゲタイト思ヒマス、午前中ニ東條サンノ御尋ハ色々ゴザイマシタガ、「アラスカ」方面ノ漁場ヘ進出ノ關係ハ、ドウ云フ風ニ考ヘルカ、彼處ハ亞米利加ガ喧シイコトヲ言フサウダカラト云フノデ、日本ハ進出シナイト云フ消極的ナ考ヲ外務省、農林省ガ持ッテ居ルンデヤナイカト云フ風ナ御尋ト存ジマシテ、東條サンノ御尋ノ趣旨ハサウ云フ消極的デハイカヌ、大ニ日本人ノ開拓スベキ漁場デハナイト云フ意味ノ御尋ト伺ッタモノデアリマスカラ、大體其點ハ農林省トシテハ同感デアリマスト云フコトヲ御答ヲ申上ゲタ譯デアリマシテ、言葉ガ多少足リナカッタカトモ思ヒマスガ、只今登坂サンノ仰セノヤウニ、露領ノ漁業ヲヤッテ居ル日魯トカ、或ハ太平洋ノ沖取ノ如キモノヲ「アラスカ」ヘ廻シテ、其處ニ出來タ隙間ニ、北千島ノ漁業者ヲウント伸バスト云フ點ニ付テ、御同感ヲ申上ゲタ趣旨デハ決シテナイノデアリマシテ、「アラスカ」

ノ漁場ノ開發問題ハ、現在如何ニシテ開發ヲスルカト云フ點ニ付キマシテハ、全然目下ノ所マダ白紙ノ狀態デゴザイマシテ、調査ヲ致シマシタ結果ニ依リマシテ、一定ノ許可ノ方針ヲ早ク定メ、而シテ出來得ル限リ適當ナ人ニ許可ヲスルト云フ段取ヲ進ミタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、千島ノ漁業者ヲ出ストカ、或ハ太平洋ヲ出ストカ、日魯漁業會社ヲ出ストカト云フ風ニ、調査ノ結果ヲモ待タナイデ、只今カラ豫定シテ居ルモノハ何モノモナイノデゴザイマス、縷々登坂サンノ御述ベニナリマシタヤウニ、實際ノ漁撈方針ヲ定メマシテハ、口魯漁業ナリ、太平洋漁業ナリ、又北洋ニ於ケル長キ經驗ヲ持ッテ居ル事情モ考慮致サナケレバナラスト思ヒマスシ、千島ノ漁業者ノ將來伸ビテ行ク方向ト云フモノモ見極メナケレバナリマセヌシ、又場合ニ依リマシテハ、ソレ以外ノモノモ考慮シナケレバナラヌ事情モアラウカト思ヒマスノデ、全然其點ハ白紙ノ狀態ニナッテ居ル譯デアリマシテ、私ノ申上ケ様ガ足りナカッタ爲ニ登坂サンノ御心配ヲ惹起シタノデヤナイカト思ヒマスカラ、更メマシテサウ云フ風ニ御諒承ヲ願ッテ置キタイと思ヒマス

○登坂委員 能ク御趣意ハ分リマシタガ、

唯私ノ一寸憂ヒマシタノハ、内國産業デア
ルガ故ニ、外國産業ヲ輕クシテモ保護シナ
ケレバナラスト云フヤウナ感じニ、一寸取
ラレタモノデアリマスカラ、單純ニ北千島
ト北洋漁業ト云フモノ、又魚族ト云フモノ
ハ、海ノ中ヲ回游致シテ居ルモノデアリマ
スカラ、陸ノヤウニキチント此處カラ外ハ
外國産業、或ハコッチカラ内ハ内國産業ト
云フヤウナ工合ニ區別ハ付ケ難イ、寧ロ同
ジ性質ヲ持ッテ居ル、根本ノ性質ヲ見マシタ
ナラバ、内國トカ外國トカ云フコトデナシ、
私ハ今日露西亞ハドウ思ヒマスカ知ランガ
「カムチャッカ」、沿海州ト云フヤウナモノハ、
我國ノ水産業ニ限ッテ經濟的領土ダト申シ
テモ宜イ位ニ思ッテ居ルノデアリマス、ソレ
ヲ單ニ外國水産業デアルカラト云フヤウナ、
今日日本精神主義ト云フヤウナモノニ因ハ
レルヤウナ感じガアリマシテ、心構ヘガ若
シモ農林當局デ多少同意ヲナサル憂ガナイ
カト云フヤウナコトヲ、實ハ心配致シタモ
ノデアリマスカラ、ドウカ此北洋水産業ト
云フモノガ北海、北千島方面ト同一性質ノ
モノデアッテ、外國産業ダトカ、内國産業ダ
トカ云フ意味デ區別サレル性質ノモノデナ
イ、從業者モ全部日本ノ漁業者ガ從事致シ
テ居ルノデアリマシテ、物資モ日本ノ物資

デアルト云フコトヲ一ツ能ク御含ミ願ヒタ
イト思フノデアリマス、此點一寸申上ケテ
私ノ質問ハ是デ終リマス
○紫安委員長 今給黎君
○今給黎委員 漁船保險法案ニ關シマシテ、
色々御尋シタイト思ッテ居リマシタケレド
モ、先刻來他ノ委員カラ詳細ニ御質問ニナ
リマシタシ、私ハ專ラ此法案ノ内容ト申シ
マスカ、出來マシタ後ノ實際ノ取扱上ニ關
シマシテ御尋ラシタイト思ッテ居ッタノデア
リマスルガ、此事モ昨日高木君カラ詳細ニ
互ッテ御尋ニナリマシテ、ソレノ御答ニナ
リマシタカラ、殆ド私ノ尋ネルヤウナコト
ハ無クナッタノデアリマス、併シ一二質シテ
置キタイコトガアリマスカラ、ソレヲ御尋
致シマス、此組合ヲ設置シマス區域ノコト
モ、昨日高木サンカラ御話ガアリマシテ、
或ル程度ノ御答ガアッタヤウデアリマスガ、
今少シハッキリ御方針ヲ承ッテ置イタ方ガ宜
イト思ヒマス、幸ニ此法案ノ趣旨ガ、當業者
ニ徹底ヲ致シマシテ、實施ノ曉ニ彼方ニモ
此方ニモ設立サレルト云フコトニナレバ、
問題デナイカモ知レマセヌケレドモ、或ハ
最初ノ程ハ餘程御獎勵ニナラナケレバ、法
案ノ趣旨モ徹底シナイ、隨テ設立ガ鈍イ、
斯様ナコトニナリマシテ、此普及ヲ焦ラル

ル結果、區域ハ小サクテモ宜シイ、組合員
ハ少クテモ宜シイ、兎ニ角速ク此組合ヲ設
置サセヨウト云フコトカラ致シマシテ、バ
ラノニ割合小サイ組合ガ出來ルヤウナコ
トニナリマス、其結果ガドウ云フコトニ
ナルカ、或ハ適當ナル發達ヲ遂ゲナイカモ
知レナイ、ソレニ付テハ自ら役員ガ出來ナ
ケレバナラス、區域ガ狭クテ組合員ガ少ナ
ケレバ、適當ナル理事者ガ得ラレナイ、理
事者ガ得ラレナイ爲ニ好イ加減ナコトヲシ
テ、隨テ色々ナ間違方起ッテ、適當ナ發達ヲ
遂ゲテ行カナイト言ッタヤウナ例ハ、往々外
ノ團體、組合ニ於テアルノデアリマス、餘リ
小サク出來ルト云フコトハ、是ハ御見合セ
ニナッタ方ガ宜カラウト私ハ考ヘマス、大體
ノ區域ノ見當ダケハ御付ケニナッテ、或ハ町
村ノ區域トカ、若クハ其他ノ區域ニ於テ、
大體限定ヲサレテ獎勵サレル方ガ宜イノデ
ヤナイカト思ヒマス、家畜保險組合ノ如キ
ハ儘カ郡區域ニナッテ居ルヤウデアリマス
ガ、サウ云フ心配モナイカト思ヒマスガ、
若シ是ガ町村ニ致シマシテモ五六千戸モア
レバ、二三百戸シカナイト云フ町村モアリ
マス、區域ニ大小ガアリマス、隨テ其中ニ
アリマス漁業組合等モ、大小區々ニナッテ居
リマスカラ、成ベク少クトモ町村ノ區域

―若シ町村が狭小デ該當者ガ少イト云フヤウナ地方ニ於テハ、數箇町村ヲ合併シマシテ、ソレデ一ツノ組合ヲ拵ヘサセルト云フコトニナラナケレバ、自ラ是方經營ニ關シマシテモ相當ナ費用モ掛ルコトデアリマス、又政府ガ助成ヲサレマスル方針モ、一組合保險設立補助ヲ二百圓、五箇年間ニ互ツテ四百圓宛ノ助成費ヲ出サレルト云フコトニナツテ居リマスガ、既定ノ豫算デハ不足ヲ告ゲルト云フコトニモナルダラウト思ヒマス、旁、大體此區域ダケハ、或ル目安ヲ御付ケニナツテ獎勵サレル方ガ宜イダラウト思ヒマスガ、此點ニ關シマシテハ、ドウ云フ御考デアリマスカ

○原政府委員 區域ノ點ニ付キマシテハ、法律ノ上デハ劃一的デナクチャナラヌトカ云フ風ニ、區域ハ限定ヲシテ居リマセヌガ、其實際ノ指導方針トシマシテハ、只今御話ノヤウニ一定ノ目安ヲ大體付ケマシテ、サウシテ適當ナ區域毎ニ組合ヲ作ラシテ行クト云フ風ニヤラナケレバナラス、ト斯様ニ考ヘテ居リマス、其適當ナ區域ト云フノガドウ云フ風ニ見テ宜イカト云フ點ニナリマス、御承知ノ通りニ此組合ノ出來マスノハ、何レモ海岸ノ地方ダケノコトニナリマスノデ、一村ダケデ出來ル場合モゴザイマ

セウシ、二箇村ニ互ル場合モゴザイマセウシ、更ニ三四箇町村ト云ツタ區域ニ互ル場合モアルダラウト思ヒマスガ、要スルニ組合員ノ數モ相當ニメテ、船モ相當多イ、其組合トシテ保險ノ經費モ立ツテ行キ、永續スル可能性モアルト云フ其邊ノ事情モ能ク見マシテ、適當ナル區域々々ヲ決メテ參ルヨリ外ナイト左様ニ考ヘテ居リマス、凡ソノ目安トシマシテハ、只今ノ所大體郡ノ區域位ナ程度ニ纏マル場合ガ多イノデヤナカラウカ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○今給黎委員 大體能ク分リマシタガ、今一ツ、保險ノ目的ハ漁船若クハ漁具ト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、先程モ御話ガゴザイマシタヤウニ、近頃相當大型ノ漁船ニ於キマシテ無電裝置ヲシテアルノデアリマス、是ハ漁業方面カラ考ヘマシテモ、非常ニ有利ナ點ガ多々アルノデアリマス、尙ホ此頃海軍方面カラ頻ニ無電裝置ノ漁船ニ注目ヲサレマシテ、色々ノ取調若クハ指導等ガアツテ居ルヤウデアリマス、多分軍事方面カラ敵艦ヤ飛行機襲來等ニ關シマスル用意ノ爲ダラウト思フノデアリマス、極力關心ヲ持ツテ色々ナコトヲサレテ居ルヤウデアリマス、是ハ獨リ漁船ノ上カラノミナラス、國家ノ上カラ考ヘマシテモ、洵ニ獎

勵スベキ結構ナコトト思フノデアリマス、多分今後はレ以上ニ無電裝置ガ發達ヲシテ來ルダラウト私ハ思フノデアリマス、所デ其設備ニ關シマシテハ、申ス迄モナク相當ノ費用ガ掛ル、私詳細ノコトハ知りマセヌガ、千何百圓、二千圓、サウ云ツタ設備費ガ要ルノデヤナイカト思ヒマス、隨テ漁船漁具ノ外ニ、之ニ要シマスル設備費モ、ヤハリ保險ノ目的トシテ加ヘラレルコトガ當然デハナイカト思ヒマス、ソレヲ希望スルノデアリマスガ、是ハドウ云フ風ニ御考ニナツテ居リマスカ、御尋致シマス

○原政府委員 只今ノ御話ノ無電ハ、船ニ取付ケテアル場合ニハ、ソレハ所謂漁船ノ一部トシマシテ當然保險ノ目的ニ考ヘテ居リマス

○山崎委員 關聯シマシテ資料ノ要求ヲシタイト思ヒマス、只今茲ニ戴イテ居リマスル漁船保險ノ資料デ、モウ少シ研究致スノニ戴キタイト思フモノガアルノデアリマス、ソレハ漁業組合別ノ所屬船舶ノ船種噸數等ノ統計ガ、若シゴザイマシタナラバ、之ヲ戴キタイト思ヒマス、ソレカラ保險率算定ノ基礎トナル全國漁船ノ海區別、先程九海區ト云フヤウナコトノ御答辯ガアリマシタ、或ハ府縣別、動力ノ有無トカ、總噸

數別デアリマストカ、或ハ漁業種類別ノ色細カイモノ、是ハ保險率ノ算定ノ基礎ニナルト思ヒマス、是ガ戴イテ居ル資料ノ中ニハナイヤウデアリマス、之ヲ頂戴シタイ

○松尾委員 私ハ森林火災國營保險法案ニ付テ伺ヒタイ、此法案ノ運用ニ當リマシテ、條文ノ疑義ノ點ガアリマスノデ簡單ニ伺ヒ見タイ、ソレハ此法案ノ第四條ニ「被保險者ハ保險ノ目的ノ所有者ニ限ル」、斯ウ云フコトガ規定ニ掲ゲラレテ居リマスガ、森林ノ所有者ハ、所有權ト云フノハ中々明確ヲ缺ク場合ガアツテ、第一區域ガ餘程判明シ難イノデアリマス、其上ニ色々樹齡ヲ異ニシテ居ルモノガ重ナリ合ツテ居ル場合モアリマス、混植サレテ居ル場合モアリマス、ソレカラ所有權ト云フモノガハッキリシテ居ルモノデナケレバナラスト云フコトデアアルト、登記ヲセズニ古來カラノ慣習上森林所有者デアルト云フコトガ決ツテ居ル場合モ相當アル、是等ハドウ云フ風ナコトニ御取扱デアリマスカ、先ヅ其點ヲ伺ヒタイ

○村上政府委員 御答へ申上ゲマス、色々ナ樹齡ハ天然林ナドニハアルヤウナ場合モゴザイマス、又仰セノ如ク色々ナ森林ガゴザイマスガ、大體人工植栽デゴザイマスカ

ラ、大體樹齡ハ一定シテ居ルト考ヘテ居リマス、唯補植ナドヲ致シタ場合ニ、多少ノ違ヒガアリマセウガ、大體同ジ樹齡デアリマスカラ、其點差支ナイト思ッテ居リマス、ソレカラ仰セノ森林所有者ト申シマスノハ、森林ノ立木ノ所有者ト云フコトニナリマス、隨テ土地ノ所有者デナクテ、借地ヲシテ植エタ人ガ、森林所有者ト云フコトニナッテ參ルノデアリマス、所有ノ不明確ナ場合ニハ、ドウモ保險ヲ附ケルノガ甚ダ困難デアリマス、多クノ場合ハ人工デ以テ木ヲ植エタ場所デゴザイマスカラ、大體ニ於テハハッキリ致サウト考ヘテ居リマス

○松尾委員 私ノ疑問ニ考ヘマスルノハ、森林ノ所有者ハ慣習上持ッテ居ルヤウナ場合ガ多イノデアリマス、登記ハ三代モ前ノ祖父サンノ名前ニナッテ居ル、現在ハソコノ家ノ所有ラシイト云フノデ、地方ノ人モ言ッテ居ルシ、又其通りヤッテ居ルノデアリマスガ、サウスルト法律上デ行キマス、三代モ前ノモノデアリマスカラ、ソレハ遺産相續ニナル場合モアリマシテ、嚴格ニ言ヘバ、ソレガ其人ノデナイカモ知レナイ、通俗的ニ之ヲ所有者ト看做シテ居ルト云フ慣習ガ地方ニアリマスガ、サウ云フ場合ハヤハリ所有者トシテ取扱ッテ貰ヘルノデアリマセ

ウカ、其點ヲ伺ヒマス
○村上政府委員 御答申上ゲマス、左様ナ場合ニハ祖父サンノ名義デアルガ、登記ヲ怠ッテ、孫ノ名ニナッテ居ナイ、現實社會的ニ見レバ、孫ノモノデアアルニ違ヒナイト云フヤウナモノハ、是ハヤハリ孫ノ所有ノ森林トシテ扱フコトニ考ヘテ居リマス

○松尾委員 モウ一點同ッテ置キタイノデアリマスガ、第七條ニハ此保險證書ヲ作成シタ翌日カラ效力ガ發生スルト云フ風ニ規定サレテ居ルノデアリマスガ、保險證書ノ作成ハ地方長官ニ委任サレテ、地方長官ニ於テ爲サルヤウニ別ノ參考書ニ於テ是ハ諒解出來ルノデアリマス、サウスルト地方長官ノ方カラ保險證書ヲ作成シテ、本人ノ手ニ届イテ翌日カラト云フコトニナルト、可ナリ申込デカラ日數ガ掛ル、ソレカラ今日ノ地方廳ノ事務ノ扱方カラ見マス、願書ヲ出シマシテモ、ソレガ決定ニナルマデ、實ニ長イ日數ヲ要シテ居ルノガ通例デアリマス、縣廳ノ受付ガ濟ンダ時ト云フヤウナコトニ決メテ置カレマセスト、非常ニ問題ガ起リハセヌカト私ハ考ヘルノデアリマスガ、民間ノ火災保險會社ニ於キマシテハ、大抵代理店等ガ領收書ヲ發行シテ、其領收書ヲ發行シタ代理店ガ、金ヲ本店ニ送ッタ

アタリカラ效力ヲ發生シテ居ル、火災保險證書ハ餘程シテカラ、本人ノ手許ニ到著スルト云フ場合ガ多イノデスカラ、此點ハ別ノ方法ヲ御考ニナラヌデモ、是デ餘リ事件ヲ紛糾セズシテ、將來ヤッテ行ケルト云フ御見込デアリマスカ、伺ッテ置キタイノデス

○村上政府委員 御答致シマス、民間ノ保險等ガ簡易敏速ニ、ソレ等ノ點デ扱ッテ居ルト云フコトモ吾々承知シテ居リマス、唯成ベク農村ノコトハ事簡明ニシテ置キタイト云フコトカラ、斯様ニ致シテ居リマス、併シ町村ナドノ扱ガ遅レマシタリ、縣廳ノ扱ガ遅レタリスルト云フコトニナリマスト、折角保險ヲ受ケル趣旨ガ却テ手遅レノ爲ニ、ソレヲ没却サレルヤウナコトガアッテモナリマセヌノデ、ソレ等ノ點ハ當初ヨリ色々考ハアリマシタガ、府縣ニモ此主任ヲ置キマシテ、此事務ニ付テハ極力敏速ニ運ブヤウニ、手遅レノナイヤウニ致シタイ、ソレ等ノ缺陷ヲ生ゼシメナイヤウニ、保險實施ノ當初カラ習慣付ケテ行キタイ、其方ニ努力ラシテ行キタイト考ヘテ居リマス、斯様致シマシタノハ——或ハ受付ノ時カラ致シマスノモ、一ツノ方法デアリマセウシ、又料金拂込ノ時トスルノモ一ツノ方法デセウシ、色々ノ場合ヲ考ヘラレマセウガ、一

番簡單デハッキリシテ居ルト云フコトヲ考ヘタノデアリマス、ソレカラ起ッテ來ル事務ノ手遅レ等ハナイヤウニ、初メカラ事務ニ付テハ極力努力シテ、習慣付ケタイト考ヘテ居リマス

○松尾委員 私ハマダ質問ガ相當殘ッテ居リマスガ、今日ハ委員長ニ於テ御所用ノヤウデスカラ、質問ヲ保留シテ置キマス

○紫安委員長 松尾君ノ御質問ヲ留保致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後四時十六分散會

昭和十二年三月十六日印刷

昭和十二年三月十七日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社